

# 米に関するマンスリーレポート

(平成29年9月号)



「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！  
[http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome\\_seisaku\\_kaikaku.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html)

#### 【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

#### 【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

## 農業法人等におけるコメの直接販売の状況

昨年11月に農林水産業・地域の活力創造本部（本部長：内閣総理大臣）において決定した「農業競争力強化プログラム」において、国は、農業者・消費者のメリットを最大化するため、農業者・団体から実需者・消費者に農産物を直接販売するルートの拡大を推進することとなっており、今般、米に関する直接販売の実態を把握するために、アンケート調査を実施しました。

本調査結果については、（公社）日本農業法人協会にご協力いただき、協会会員のうち米を生産する農業法人等（以下「法人等」という）を対象に郵送によるアンケート調査を実施し、直接販売を行っている170法人のご意見を取りまとめたものです。

ご回答いただいた法人等の主食用米の年間販売数量に占める直接販売の割合は平均43%となっています。また、直接販売数量（年間）の平均は60トンとなっており、調査結果のグラフの中では全体の割合と併せて60トン未満、60トン以上に分けた情報も掲載しています。

アンケートにご協力いただいた、（公社）日本農業法人協会及び協会会員の皆様にお礼申し上げます。

### 1 直接販売先

- 直接販売量が多い法人等ほど、大口ロットで取引する小売店や実需者等への販売割合が高くなっている。
- 直接販売を行っている法人等の67%が自前の精米機を所有している。

- ・ 主な直接販売先（図1）としては、消費者への販売が93%と最も多く、次いで弁当や炊飯事業者など実需者への販売が58%、小売店への販売が49%と、エンドユーザーへの販売割合が高く、卸業者への販売は49%となっており、玄米より精米での販売が多い状況にある。
- ・ また、直接販売量が多いほど小売店や実需者等への販売割合が高くなっており、大口ロットでの取引につながっている。
- ・ なお、直接販売を行う法人等の67%が自ら精米機を所有（図2）しており、所有する精米機の1時間当たりのとう精能力（図3）は、平均340kg程度となっている。

（参考）コイン精米機の1時間当たりのとう精能力は平均200～300kg程度

図2 直接販売を行う法人等の精米機所有率

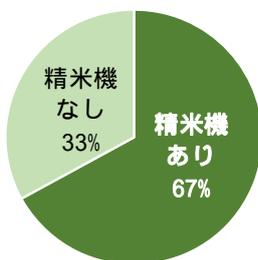


図1 主な直接販売先（規模別） 複数回答

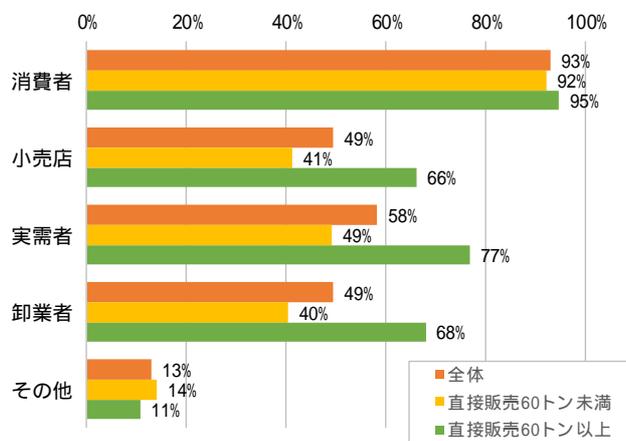
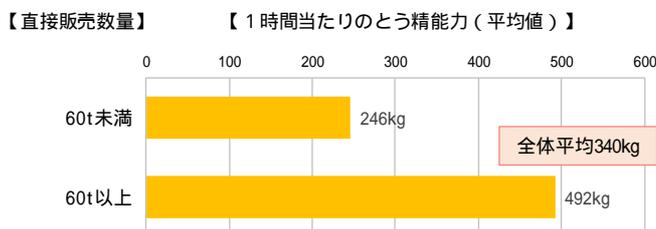


図3 直接販売を行う法人等が所有する精米機のとう精能力（規模別）



## 2 販売方法

- 直接販売量が多い法人等ほど、インターネット販売の活用割合が高い。
- 直接販売では、有機栽培や無農薬栽培など特徴のある米を販売している割合が高い。

- ・ 直接販売を行う際の販売方法（図4）としては、自宅や直売所等での対面販売が81%と最も多く、次いでインターネットを活用した販売が38%となっている。
- ・ なお、直接販売量が多いほどインターネットを活用する割合が54%と高くなっている。
- ・ また、直接販売する米の主な栽培方法（図5）を見ると、慣行栽培のみは30%となっており、70%は慣行栽培のほか有機栽培や無農薬栽培など、特徴のある米を生産・販売している。

図4 主な販売方法（階層別） 複数回答

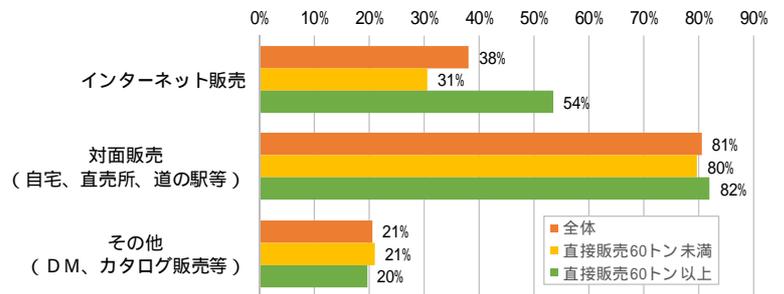
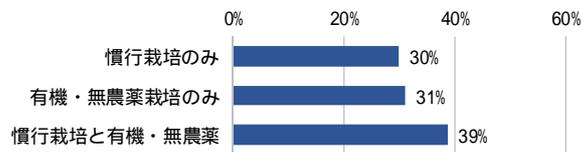


図5 直接販売する米の主な栽培方法別割合



## 3 配達・代金回収方法

- 配達方法は、自ら配達が88%、次いで宅配便等が67%。
- 代金回収方法は、銀行等口座振込が90%、次いで自ら集金が67%。

- ・ 直接販売を行う際の配達方法（図6）としては、自ら配達が88%と最も多く、次いで宅配便等を活用が67%となっている。
- ・ これは、販売先が比較的近距離であったり、特定の取引先である場合は自ら配達を行い、インターネットなどを活用し不特定多数へ販売する場合は宅配便等を使用する傾向にある。
- ・ また、代金の回収方法（図7）としては、銀行口座等への振込が90%が最も多く、次いで自ら集金が67%となっている。
- ・ 宅配便等による代金引換は36%となっており、インターネット販売などでの販売数量が多く、確実な集金を望む法人等では、振込や代金引換を活用する割合が高い。

図6 直接販売における主な配達方法（階層別） 複数回答

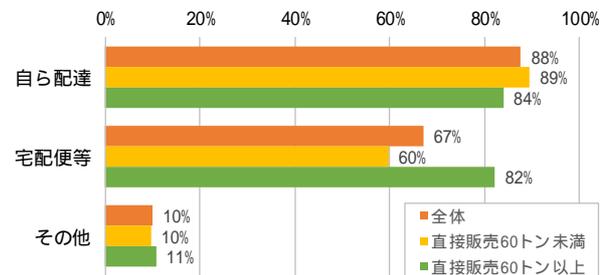
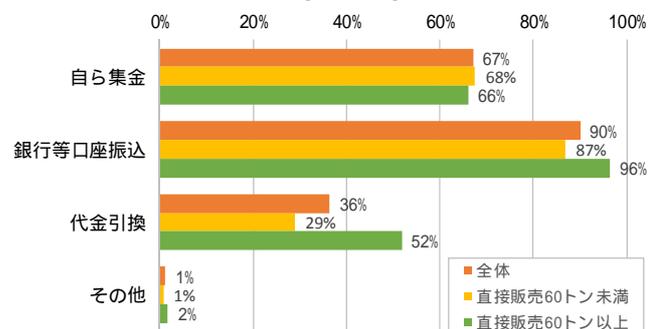


図7 主な代金回収方法（階層別） 複数回答



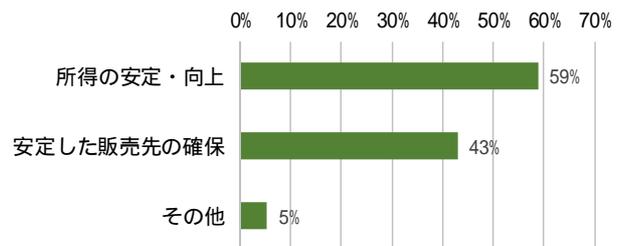
## 4 直接販売のメリット

- 直接販売のメリットは、「所得の安定や向上」との回答がもっとも多く、次いで「安定した販売先の確保」との回答が多かった。

- ・ 直接販売を行うメリット（図8）としては、「所得の安定や向上」と答えた割合が59%と最も多く、
  - \* 自ら価格決定することで有利販売（相場に左右されない価格決定）が可能
  - \* 中間マージン等流通コスト削減に繋がる
  - \* 現金化が早い 等の意見が多かった。

- ・ 次いで、「安定した販売先の確保」と答えた割合が43%となっており、
  - \* 特定の取引先との契約販売を継続している
  - \* 消費者との繋がりを重視した販売
  - \* 実需者の声を反映した生産・販売等の意見が多かった。
- ・ その他には、
  - \* 有機や無農薬栽培などこだわりのある米の販売
  - \* 消費者等に売ることが生産意欲に繋がる等の意見があった。

図8 直接販売の主なメリット 記述による回答

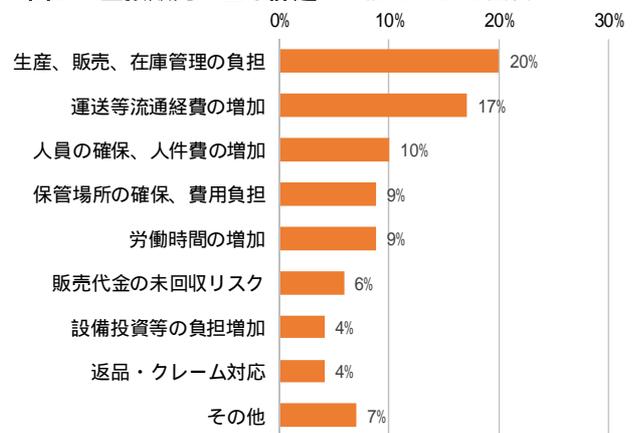


## 5 直接販売を行う上での課題

○ 「在庫管理など経営判断の難しさが課題」との回答が最も多く、次いで、「経費面での負担増が課題」との回答が多かった。

- ・ 直接販売を行う上での課題（図9）としては、作柄による生産量の過不足、販売量の調整、在庫管理など、経営判断の難しさに関する回答が20%と最も多かった。
- ・ 次いで、
  - \* 販売先の拡大に伴い運送等流通経費が増加する
  - \* 人件費負担が大きい、倉庫の確保や保管経費、設備投資が負担となる
 など、経費面での回答が多かった。
- ・ このように、直接販売を行うには、新たな掛り増し経費への対応や、業務量増加に伴う人員確保の難しさも課題となっている。

図9 直接販売の主な課題 記述による回答

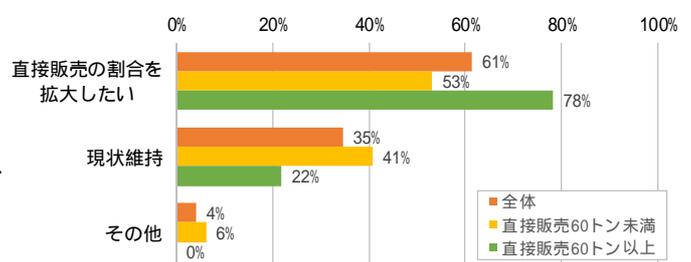


## 6 直接販売に対する今後の意向

○ 直接販売が多い法人等ほど、拡大の意向が強い。

- ・ 既に米の直接販売を行っている法人等の今後の意向（図10）としては、所得を確保ため、更に直接販売の割合を拡大したいとの意見が61%と最も多く、大規模に直接販売を行っている法人等ほどその意向が強い。
- ・ なお、「現状維持」と答えた割合は35%であり、その理由としては、生産量や設備の状況等から更なる拡大が困難との意見があった。

図10 直接販売を行う法人等の今後の意向



## 7 まとめ

- 以上のことから、今後、直接販売を拡大する意向がある法人等が相当程度の割合を占めている。
- 直接販売がより拡大するためには、今回、回答のあった課題の解決に向け、生産するだけでなく、いかに売っていくかという経営感覚が求められると考えられる。

飼料用米を活用した畜産物のブランド力強化を進めるため、飼料用米を生産する農家と連携しながら、従来の畜産物より付加価値を向上させて飼料用米活用畜産物を販売している畜産事業者を表彰する「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」が開催されます。

## 飼料用米活用畜産物ブランド 日本一コンテストを開催!!

田んぼ発

募集中! 平成29年8月~11月末



お米で育った畜産物

※ロゴマークを全国に普及する取組を行っています!!

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

### ●応募について (詳しくは応募用紙を参照下さい)

- ・飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- ・飼料用米の給餌割合が一定以上であること 等

※ 応募様式等詳細は以下HPでもご覧いただけます。

### ●開催スケジュール

- ・ 応募期間 平成29年8月~11月末日
- ・ 審査委員会 平成30年1月~2月
- ・ 表彰式 平成30年3月上旬 (東京都内)

### ●褒賞

- ・ 農林水産大臣賞 ・ 政策統括官賞
- ・ 全国農業協同組合中央会 会長賞
- ・ 公益社団法人中央畜産会 会長賞



### ●応募先及びお問い合わせ先

主催者：一般社団法人日本養豚協会 (担当、山梨・倉本)  
住 所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937  
メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)  
H P：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト アドレス  
→ <http://okome-sodachi.jp/index.html>

# 目 次

## 特集 農業法人等におけるコメの直接販売の状況

I	平成29年産水稻の8月15日現在における作柄概況	1
II	米の需給・契約・販売	
1	主食用米等の需給見通し（米の基本指針（平成29年7月31日））	
(1)	平成28/29年の需要実績（速報値）	5
(2)	平成29/30年の需要見通し（推計値）	5
(3)	平成29/30年の需給見通し	6
2	米の契約・販売	
(1)	政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入札の結果	10
(2)	平成28年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成29年7月末現在）	11
(3)	産地別事前契約数量	15
III	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成23年7月末～平成29年7月末）（速報）	17
(2)	産地別民間在庫の状況（前年同月比）	19
(3)	平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 （うるち米、平成29年7月末から平成30年6月末）（速報）	20
IV	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格（年産別）	28
(2)	価格帯別分析結果（平成29年7月）	29
(3)	相対取引価格・数量（平成28年産米、産地品種銘柄別、平成29年7月分）	30
(4)	スポット価格の状況	33
2	米の先物取引価格の推移	34
3	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成29年8月分）	35
V	主食用米以外（輸出を含む）	
1	28年産米の作付状況	
(1)	28年産米の用途別作付面積及び生産量	37
(2)	主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	37
(3)	新規需要米の用途別認定状況	37
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	38
3	主食用米（生産数量目標の枠内）のうち加工原材料用向け販売数量 及び加工用米生産量の状況	39
4	飼料用米の需要量	40
5	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	42
6	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	43
VI	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	44
(2)	畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	48
(3)	米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	50
(4)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	52
VII	消費動向	
(1)	米の消費動向（米穀機構による調査）	54
(2)	購入数量の推移（家計調査）	55
(3)	消費者物価指数の推移	56
(4)	小売物価統計の推移	57
(5)	小売価格の推移（POSデータ）	58
VIII	MA米（一般・SBS）の動向	
(1)	MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	59
(2)	加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成28年度）	60
(3)	SBS輸入米の見積合わせ結果（平成28年度）	60
IX	その他	
(1)	水稻うるち玄米の農産物検査結果	61
(2)	平成28年産水稻の作付面積及び収穫量	62

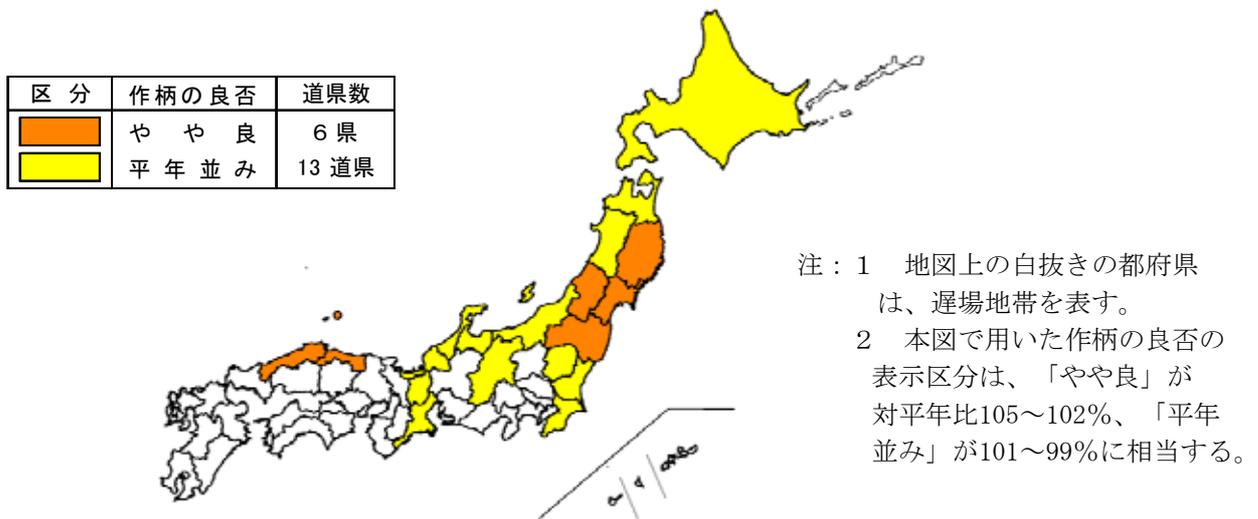
## I 平成29年産水稻の8月15日現在における作柄概況

- 8月15日現在の早場地帯の作柄は「平年並み」又は「やや良」、遅場地帯の生育は「平年並み」又は「やや良」の見込み

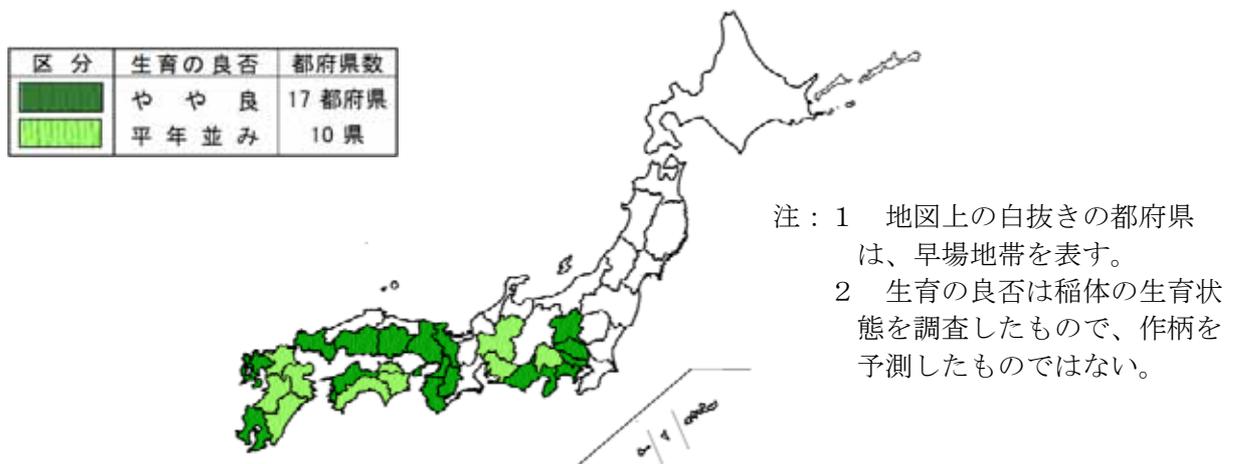
### 【調査結果の概要】

- 東日本を中心とした早場地帯（19道県）の作柄は、「平年並み」又は「やや良」と見込まれる。  
これは、一部の地域で7月下旬から8月中旬の日照不足等の影響が見込まれるものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことから、全もみ数が一部地域を除き平年以上に確保されると見込まれるためである。
- 西日本を中心とした遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く27都府県）の生育は、田植え期以降おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」又は「やや良」で推移している。

### 図1 早場地帯の作柄の良否



### 図2 遅場地帯の生育の良否



1 平成29年産水稻の都道府県別田植及び出穂の状況(8月15日現在)

都道府県	田植期					出穂期					出穂済面積割合		
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年値	対前年差	
				対前年差	対前年差				対前年差	対前年差			
月 日	月 日	月 日	日	早	遅	月 日	月 日	月 日	日	早	遅	%	ポイント
北海道	5. 18	5. 24	5. 30	2日早	並み	7. 25	7. 31	8. 6	並み	2日早		100	0
青森	5. 15	5. 20	5. 28	2日早	1日早	8. 2	8. 6	8. 12	1日遅	1日遅		99	△ 1
岩手	5. 10	5. 17	5. 25	1日早	並み	8. 1	8. 6	8. 12	並み	並み		100	0
宮城	5. 4	5. 11	5. 21	1日早	並み	7. 29	8. 1	8. 11	2日早	1日早		98	△ 1
秋田	5. 15	5. 22	5. 30	1日早	1日遅	8. 3	8. 6	8. 13	2日遅	2日遅		98	△ 2
山形	5. 13	5. 18	5. 26	1日早	並み	8. 3	8. 7	8. 14	1日遅	1日遅		98	△ 1
福島	5. 10	5. 17	5. 27	1日早	1日遅	8. 2	8. 9	...	1日早	並み		94	0
茨城	4. 27	5. 5	5. 25	2日早	1日早	7. 15	7. 27	8. 10	4日早	3日早		98	1
栃木	5. 1	5. 6	6. 14	1日早	並み	7. 22	7. 28	...	4日早	3日早		91	2
群馬	5. 22	6. 14	6. 27	並み	1日遅	8. 8	...	...	...	...		41	1
埼玉	4. 28	5. 22	6. 27	並み	1日遅	7. 21	8. 8	...	3日早	2日早		66	4
千葉	4. 18	4. 29	5. 13	1日遅	2日遅	7. 11	7. 22	8. 2	2日早	1日早		100	0
東京都	5. 28	6. 11	6. 29	2日早	2日早	8. 5	8. 13	...	2日早	2日早		60	5
神奈川県	5. 19	6. 2	6. 12	1日遅	1日遅	7. 30	8. 11	...	1日早	2日早		79	1
新潟	5. 4	5. 10	5. 20	1日早	1日遅	7. 27	8. 6	8. 14	並み	2日遅		98	△ 1
富山	5. 2	5. 12	5. 18	並み	並み	7. 20	8. 2	8. 12	並み	2日遅		100	0
石川	4. 30	5. 5	5. 23	並み	1日遅	7. 17	7. 29	8. 4	1日早	2日遅		100	0
福井	4. 30	5. 14	5. 26	2日早	2日早	7. 13	7. 30	8. 12	3日早	2日早		98	0
山梨	5. 14	5. 28	6. 18	1日早	1日遅	8. 1	8. 9	...	1日早	2日遅		77	1
長野	5. 12	5. 22	6. 3	並み	並み	7. 29	8. 5	8. 14	2日早	1日早		96	1
岐阜	5. 2	5. 28	6. 10	1日遅	1日遅	7. 20	...	...	...	...		49	0
静岡県	4. 28	5. 19	6. 11	1日早	1日遅	7. 19	8. 5	...	4日早	1日早		70	3
愛知	4. 30	5. 23	6. 10	1日早	並み	7. 23	...	...	...	...		44	0
三重	4. 17	5. 1	5. 19	1日早	1日遅	7. 14	7. 23	8. 9	1日早	2日遅		97	0
滋賀	5. 1	5. 9	5. 28	1日早	並み	7. 23	7. 29	...	4日早	1日早		94	2
京都	5. 6	5. 21	6. 6	2日早	2日早	7. 22	8. 1	...	3日早	1日早		87	6
大阪	5. 17	6. 8	6. 20	並み	並み	7. 31	...	...	...	...		27	0
兵庫	5. 12	6. 3	6. 15	1日早	並み	7. 26	8. 9	...	4日早	3日早		65	3
奈良	5. 7	6. 8	6. 14	並み	並み	7. 31	...	...	...	...		30	0
和歌山	5. 2	6. 4	6. 17	並み	1日遅	7. 18	8. 7	...	1日早	1日遅		83	△ 1
鳥取	5. 5	5. 24	6. 5	2日早	1日早	7. 23	8. 2	...	5日早	3日早		92	6
島根	5. 2	5. 15	6. 5	1日遅	2日遅	7. 18	7. 27	...	6日早	1日早		94	4
岡山	5. 13	6. 7	6. 22	1日早	1日早	7. 29	...	...	...	...		42	1
広島	5. 4	5. 18	6. 5	並み	並み	7. 22	8. 5	...	3日早	3日早		75	4
山口	5. 12	6. 2	6. 23	2日遅	並み	7. 28	8. 7	...	3日早	1日早		65	1
徳島(早期栽培)	4. 6	4. 16	5. 2	2日早	並み	7. 6	7. 13	7. 25	3日早	並み		100	0
(普通栽培)	5. 2	5. 23	6. 12	並み	1日遅	7. 21	7. 30	...	1日早	並み		88	4
香川	4. 27	6. 15	6. 28	並み	1日遅	7. 20	...	...	...	...		41	0
愛媛	4. 23	6. 1	6. 21	1日早	1日早	7. 17	8. 12	...	2日早	1日遅		57	2
高知(早期栽培)	4. 3	4. 13	4. 22	1日遅	2日遅	6. 25	7. 1	7. 11	4日早	1日遅		100	0
(普通栽培)	5. 17	5. 27	6. 13	並み	2日遅	8. 11	...	...	...	...		28	1
福岡	5. 17	6. 17	6. 28	並み	1日遅	8. 1	...	...	...	...		35	4
佐賀	5. 5	6. 19	6. 28	1日早	並み	7. 19	...	...	...	...		28	8
長崎	4. 21	6. 16	7. 2	1日遅	3日遅	7. 15	...	...	...	...		14	△ 1
熊本	4. 23	6. 14	7. 2	1日早	3日早	7. 14	...	...	...	...		24	1
大分	5. 16	6. 13	6. 29	並み	並み	7. 29	...	...	...	...		20	1
宮崎(早期栽培)	3. 20	3. 26	4. 5	1日早	並み	6. 21	6. 28	7. 3	2日遅	7日遅		100	0
(普通栽培)	5. 29	6. 15	6. 26	1日早	1日遅	...	...	...	...	...		3	0
鹿児島(早期栽培)	3. 19	4. 4	4. 15	並み	並み	6. 16	6. 29	7. 15	2日遅	7日遅		100	0
(普通栽培)	6. 13	6. 22	6. 30	1日遅	2日遅	...	...	...	...	...		0	0
沖縄(第一期稲)	2. 18	3. 12	4. 8	7日遅	7日遅	5. 11	5. 25	6. 4	2日遅	2日遅		100	0

注:1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。  
 2 出穂期の「始期」、「最盛期」及び「終期」の欄の「...」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示す。  
 3 出穂済面積割合の対前年差欄の「△」は、前年より少ないことを示す。

## 2 平成29年産水稻早場地帯の作柄概況(8月15日現在)

区 分	平 年 比 較				
	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北海道	平年並み	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
青森	平年並み	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良
岩手	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
宮城	やや良	多い	やや少ない	やや多い	やや不良
秋田	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
山形	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
福島	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
茨城	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
栃木	平年並み	やや多い	やや少ない	やや多い	やや不良
千葉	平年並み	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
新潟	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
富山	平年並み	多い	やや少ない	やや多い	やや不良
石川	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福井	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
長野	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
三重	平年並み	やや多い	少ない	やや少ない	やや良
滋賀	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
鳥取	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
島根	やや良	多い	平年並み	やや多い	やや不良

注：本表における年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

## 3 平成29年産水稻遅場地帯の生育状況(8月15日現在)

区 分	平 年 比 較		
	生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
群馬	やや良	長い	平年並み
埼玉	やや良	平年並み	やや多い
東京	やや良	長い	やや多い
神奈川	やや良	平年並み	多い
山梨	平年並み	平年並み	平年並み
岐阜	平年並み	平年並み	やや多い
静岡	やや良	やや長い	やや多い
愛知	平年並み	やや短い	やや多い
京都	やや良	平年並み	やや多い
大阪	やや良	平年並み	やや多い
兵庫	やや良	やや長い	やや多い
奈良	やや良	平年並み	やや多い
和歌山	やや良	平年並み	やや多い
岡山	やや良	やや長い	やや多い
広島	やや良	平年並み	やや多い
山口	やや良	やや長い	やや多い
徳島 (普通栽培)	平年並み	やや短い	やや多い
香川	平年並み	平年並み	平年並み
愛媛	やや良	やや長い	やや多い
高知 (普通栽培)	平年並み	平年並み	平年並み
福岡	平年並み	やや長い	平年並み
佐賀	やや良	平年並み	やや多い
長崎	やや良	やや長い	やや多い
熊本	平年並み	平年並み	平年並み
大分	平年並み	やや長い	平年並み
宮崎 (普通栽培)	平年並み	やや長い	平年並み
鹿児島 (普通栽培)	やや良	平年並み	やや多い

注：生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

#### 4 平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(8月15日現在)

##### (1) 10a当たり予想収量

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			(参考)	
		10 a 当たり 予想収量 ②	10 a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	作 付 面 積 (子実用、見込み) ⑤	予想収穫量 ⑥=①×⑤
	kg	kg	kg		ha	t
徳 島	482	476	459	104	4,450	21,400
高 知	499	495	477	104	6,500	32,400
宮 崎	494	486	470	103	6,510	32,200
鹿 児 島	472	465	434	107	4,460	21,100
沖 縄	354	350	363	96	537	1,900

- 注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10 a 当たり予想収量、③10 a 当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅(四国及び沖縄は1.75mm、九州は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
 3 沖縄県は第一期稲である(②の統計表において同じ。)  
 4 (参考)の⑤作付面積(子実用、見込み)は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積(参考値)であり、今後変動する可能性がある。

##### (2) 作柄概況及び刈取済面積割合

区 分	平 年 比 較				刈取済面積割合	
	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否	当年値	対平年差
					%	ポイント
徳 島	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	16	6
高 知	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	91	26
宮 崎	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良	99	△ 1
鹿 児 島	やや多い	やや多い	多 い	やや良	85	△ 1
沖 縄	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	100	0

- 注：1 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや少ない・やや不良」が98~95%、「少ない・不良」が94%以下に相当する。  
 2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

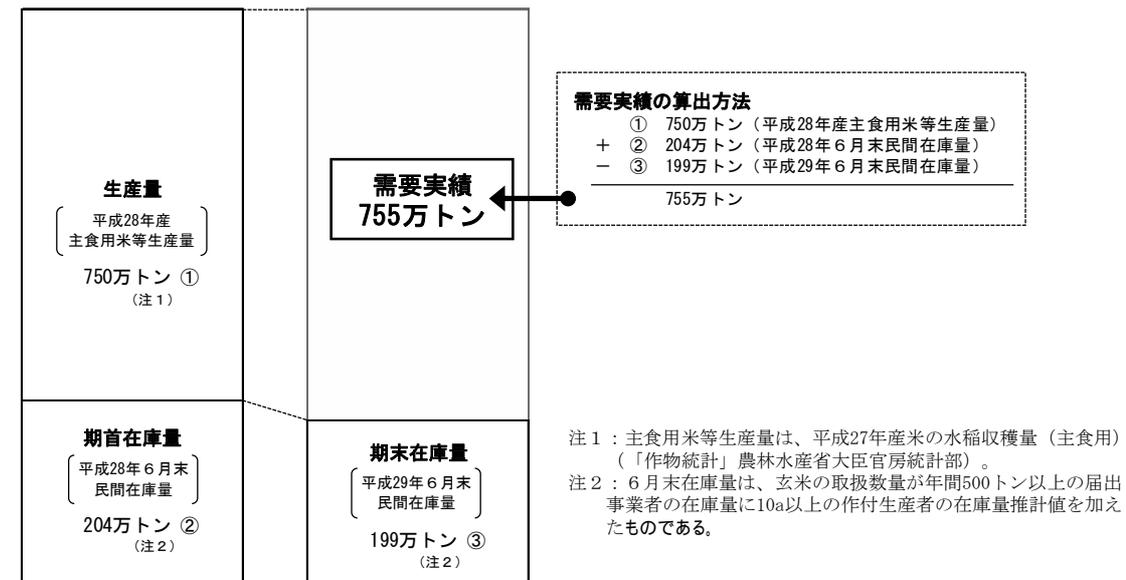
○ 平成29年産水稻の8月15日現在における作柄概況は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。  
 【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y2](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y2) 】

## Ⅱ 米の需給・契約・販売

### 1 主食用米等の需給見通し（米の基本指針(平成29年7月31日)）

#### (1) 平成28/29年の需要実績（速報値）

- 平成28/29年（平成28年7月から平成29年6月までの1年間）の需要実績（速報値）は、755万トンと平成27/28年（766万トン）から▲11万トンの減少となった。
- 平成29年6月末民間在庫量は、5年ぶりに200万トンを下回る199万トンとなった。

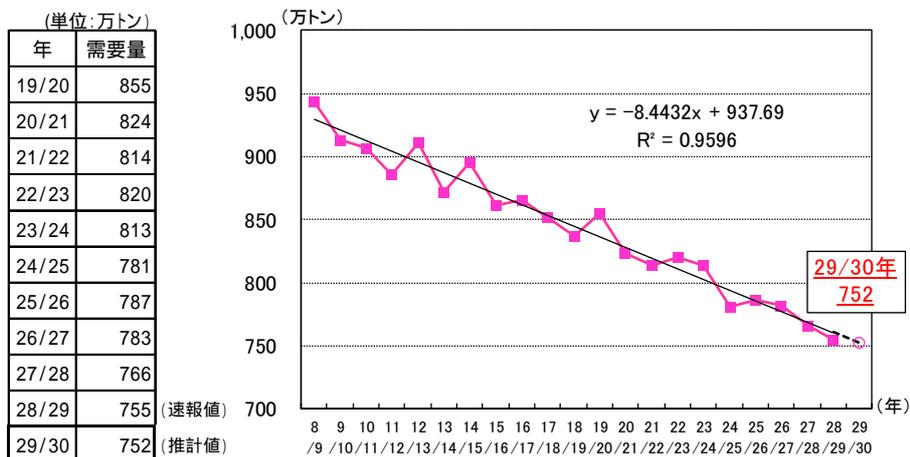


（参考：6月末民間在庫量の推移）

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年 (速報値)
民間在庫	213	175	182	184	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199

#### (2) 平成29/30年の需要見通し（推計値）

- 平成29/30年の需要見通しについては、平成8/9年から平成28/29年までの需要実績を用いてトレンドで算出し、752万トンと見通す。



### (3) 平成29/30年の需給見通し

- 平成29/30年の需給見通しについては、「平成29年6月末民間在庫量199万トン」、「平成29/30年の需要見通し752万トン」を踏まえると、下の表のようになり、平成30年6月末民間在庫量は、平成29年産が生産数量目標どおりの生産量となった場合は182万トン、自主的取組参考値どおりの生産量となった場合は180万トンと見通される。

		(単位:万トン)	
平成29年6月末民間在庫量	A	199	199
平成29年産主食用米等生産量	B	735 (生産数量目標)	733 (自主的取組参考値)
平成29/30年主食用米等供給量計	C=A+B	934	932
平成29/30年主食用米等需要量	D	752	752
平成30年6月末民間在庫量	E=C-D	182	180

<平成29年産米の生産数量目標等の考え方>

【生産数量目標】

近年のトレンドとして需要が毎年概ね8万トン減少していることを勘案し、平成28年産米の生産数量目標743万トンから8万トンを控除した735万トンと設定。

【自主的取組参考値】

平成30年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万トン)となるものとして、733万トンと設定。

### (参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量(生産、出荷、販売段階における在庫量)の水準もその要因の一つ。

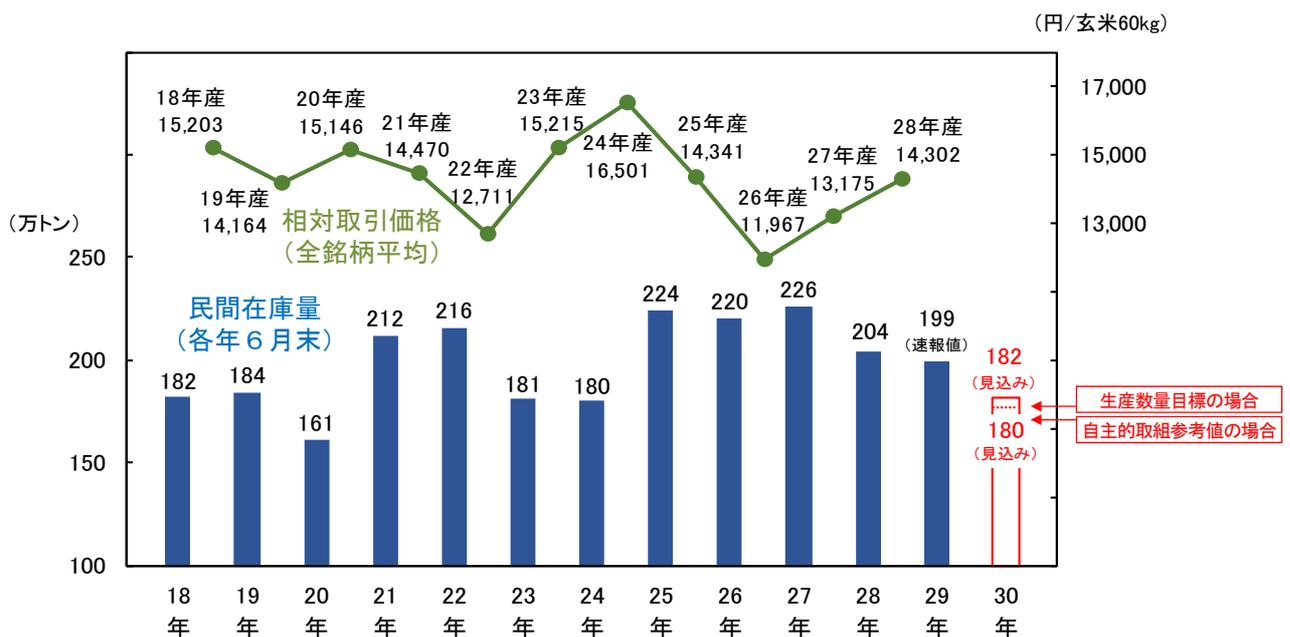


表 平成29年産米の都道府県別の生産数量目標等

(単位: トン、ha)

都道府県	27年産生産数量目標 のシェア(注1)	29年産生産数量目標		29年産自主的取組参考値	
			面積換算値		面積換算値
全国計	100%	735万トン	139万ha	733万トン	138万ha
北海道	547,330 / 7,510,000	535,669	99,015	534,212	98,745
青森	242,460 / 7,510,000	237,294	40,494	236,649	40,384
岩手	271,210 / 7,510,000	265,432	49,706	264,710	49,571
宮城	348,620 / 7,510,000	341,193	64,255	340,264	64,080
秋田	417,540 / 7,510,000	408,644	71,317	407,532	71,123
山形	344,500 / 7,510,000	337,160	56,666	336,243	56,511
福島	339,550 / 7,510,000	332,316	61,313	331,412	61,146
茨城	337,370 / 7,510,000	330,182	63,012	329,284	62,840
栃木	298,690 / 7,510,000	292,326	54,134	291,531	53,987
群馬	75,670 / 7,510,000	74,058	14,961	73,856	14,920
埼玉	151,270 / 7,510,000	148,047	30,214	147,644	30,131
千葉	246,490 / 7,510,000	241,239	45,091	240,582	44,969
東京	770 / 7,510,000	754	183	752	183
神奈川	14,400 / 7,510,000	14,093	2,859	14,055	2,851
新潟	521,290 / 7,510,000	510,184	94,304	508,796	94,047
富山	185,650 / 7,510,000	181,695	33,710	181,200	33,618
石川	123,630 / 7,510,000	120,996	23,313	120,667	23,250
福井	125,460 / 7,510,000	122,787	23,658	122,453	23,594
山梨	27,430 / 7,510,000	26,846	4,908	26,773	4,895
長野	194,000 / 7,510,000	189,867	30,574	189,350	30,491
岐阜	111,270 / 7,510,000	108,899	22,315	108,603	22,255
静岡	82,920 / 7,510,000	81,153	15,576	80,933	15,534
愛知	134,970 / 7,510,000	132,094	26,054	131,735	25,983
三重	143,510 / 7,510,000	140,453	28,091	140,070	28,014
滋賀	160,450 / 7,510,000	157,032	30,315	156,604	30,232
京都	75,930 / 7,510,000	74,312	14,542	74,110	14,503
大阪	26,220 / 7,510,000	25,661	5,184	25,592	5,170
兵庫	180,440 / 7,510,000	176,596	35,178	176,115	35,083
奈良	41,690 / 7,510,000	40,802	7,954	40,691	7,932
和歌山	34,850 / 7,510,000	34,108	6,891	34,015	6,872
鳥取	66,110 / 7,510,000	64,702	12,588	64,525	12,554
島根	90,000 / 7,510,000	88,083	17,305	87,843	17,258
岡山	158,550 / 7,510,000	155,172	29,500	154,750	29,420
広島	129,970 / 7,510,000	127,201	24,321	126,855	24,255
山口	108,760 / 7,510,000	106,443	21,120	106,153	21,062
徳島	58,540 / 7,510,000	57,293	12,087	57,137	12,054
香川	70,240 / 7,510,000	68,744	13,776	68,556	13,739
愛媛	73,920 / 7,510,000	72,345	14,527	72,148	14,488
高知	50,070 / 7,510,000	49,003	10,699	48,870	10,670
福岡	182,470 / 7,510,000	178,582	35,932	178,097	35,834
佐賀	138,420 / 7,510,000	135,471	26,102	135,102	26,031
長崎	62,850 / 7,510,000	61,511	12,842	61,344	12,807
熊本	189,310 / 7,510,000	185,277	36,116	184,773	36,018
大分	117,690 / 7,510,000	115,183	22,945	114,869	22,882
宮崎	93,600 / 7,510,000	91,606	18,469	91,357	18,419
鹿児島	111,070 / 7,510,000	108,704	22,553	108,408	22,491
沖縄	2,860 / 7,510,000	2,799	906	2,791	903

注1: 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(平成27年11月)において、平成27年産米の都道府県別のシェアを固定し、当該シェアで按分して平成29年産米の都道府県別の生産数量目標及び自主的取組参考値とする旨を公表済み。

注2: 端数処理の結果、合計値は一致しない。

(参考) 都道府県における地域農業再生協議会別の作付動向 (平成29年4月末現在)

単位: 協議会数

	生産数量目標等の達成見込み ※1	主食用米 ※2		飼料用米 ※3			WCS ※3			麦 ※3			大豆 ※3		
		生産数量目標の達成が見込まれる	生産数量目標の達成に向けて更なる取組が必要	増加傾向	前年並み傾向	減少傾向	増加傾向	前年並み傾向	減少傾向	増加傾向	前年並み傾向	減少傾向	増加傾向	前年並み傾向	減少傾向
北海道	◎	105	8	21	14	36	10	6	6	30	23	35	34	22	26
青森	◎	40	0	7	11	19	5	11	6	12	4	4	15	8	9
岩手	◎	30	0	9	9	8	7	11	5	6	15	3	8	11	9
宮城	◎	35	0	18	3	8	12	6	8	9	3	6	10	10	12
秋田	◎	23	2	12	5	5	5	6	5	3	1	3	10	6	8
山形	○	33	2	17	8	10	8	11	8	4	7	1	16	14	4
福島	×	34	14	22	8	13	16	12	7	7	10	4	12	17	7
茨城	×	21	23	33	5	6	9	6	7	13	5	16	12	12	15
栃木	◎	19	6	17	2	6	7	3	13	10	5	9	6	2	17
群馬	◎	25	7	7	5	9	4	7	4	19	1	5	14	3	4
埼玉	×	43	17	4	30	10	2	5	2	5	27	7	5	24	1
千葉	×	28	24	25	21	2	16	11	3	9	8	5	13	15	0
東京	◎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
神奈川	×	6	21	0	3	0	0	0	0	1	4	1	0	9	0
新潟	×	13	22	16	7	9	8	6	5	10	4	5	23	4	7
富山	◎	12	0	11	0	1	5	0	2	3	1	7	4	3	5
石川	◎	17	0	3	10	2	1	2	1	11	0	2	2	14	0
福井	◎	17	0	8	5	4	1	4	2	4	4	8	7	7	2
山梨	◎	23	1	4	3	4	1	0	0	3	3	6	5	7	6
長野	×	52	6	9	11	10	8	8	4	8	20	9	13	23	13
岐阜	◎	31	7	0	34	0	0	12	0	11	4	9	0	33	0
静岡	×	12	22	9	9	1	4	3	1	2	3	9	6	2	10
愛知	×	22	16	16	8	7	3	5	2	10	9	4	5	15	4
三重	◎	26	4	19	6	0	0	12	0	4	20	0	4	13	0
滋賀	◎	19	0	9	7	1	2	8	0	6	3	10	2	10	7
京都	◎	26	1	4	7	0	3	3	1	1	7	1	8	8	1
大阪	○	40	3	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	8	0
兵庫	○	36	5	12	9	5	9	15	2	12	3	12	12	13	10
奈良	×	27	10	10	10	1	1	4	1	4	1	5	6	5	8
和歌山	◎	29	1	3	2	0	2	2	1	0	2	0	0	9	0
鳥取	◎	19	0	8	1	8	8	2	3	7	0	7	8	1	9
島根	◎	18	0	5	1	6	6	2	10	4	3	8	4	4	9
岡山	◎	22	5	12	10	3	3	12	5	4	18	0	6	18	3
広島	◎	23	0	9	0	4	4	1	6	7	2	3	9	6	1
山口	◎	11	0	5	1	4	6	2	2	8	0	2	3	2	6
徳島	◎	19	6	2	9	10	1	8	0	1	8	0	0	9	1
香川	◎	14	2	2	2	7	6	2	1	11	2	0	5	1	7
愛媛	◎	20	0	10	2	4	3	1	4	10	3	1	11	0	4
高知	×	7	19	7	9	4	6	5	4	3	0	4	6	0	2
福岡	◎	65	0	29	9	7	17	8	9	19	13	21	24	11	14
佐賀	◎	25	0	15	1	3	15	1	2	4	2	16	16	4	2
長崎	◎	21	0	2	6	2	1	11	4	0	13	0	0	12	0
熊本	◎	47	0	12	17	4	19	19	5	10	14	10	11	12	12
大分	◎	16	0	10	3	1	8	3	2	3	2	9	6	5	4
宮崎	◎	18	0	9	1	6	17	0	0	4	1	11	6	4	6
鹿児島	◎	37	0	11	6	8	26	5	1	7	5	4	5	2	7
沖縄	◎	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1,240	254	473	334	258	295	261	154	319	286	282	372	418	272

※1 生産数量目標等の達成見込みは、「◎: 自主的取組参考値までの深掘が見込まれる」、「○: 生産数量目標の達成が見込まれる」、「×: 生産数量目標の達成に向けて更なる取組が必要」で分類。

※2 平成29年度米の生産数量目標が配分されている地域農業再生協議会が対象。

※3 平成28年度産または29年度産で作付けがある地域農業再生協議会が対象で、麦・大豆は二毛作を含む。

地域農業再生協議会別の作付動向については、以下のURLを御覧ください。

[http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku\\_tokatu/s\\_taisaku/170526.html](http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/s_taisaku/170526.html)

(参考) 29年産米等の第2回中間的取組状況(平成29年4月末現在)

単位: ha

都道府県	生産数量 目標等の 達成見込み (注1)	飼料用米等の第2回中間的取組状況(注2)							
		飼料用米		WCS		麦		大豆	
		28年産	29年産	28年産	29年産	28年産	29年産	28年産	29年産
北海道	◎	2,770		461		33,392		18,411	
青森県	◎	7,414		714		881		4,418	
岩手県	◎	4,703		1,608		3,515		3,699	
宮城県	◎	5,915		2,086		2,207		10,809	
秋田県	◎	3,152		1,259		332		7,813	
山形県	○	3,842		849		104		4,925	
福島県	×	5,513		1,068		182		920	
茨城県	×	7,840		607		4,908		2,605	
栃木県	◎	10,402		1,711		11,168		2,459	
群馬県	◎	1,844		590		6,548		111	
埼玉県	×	2,857		144		4,721		382	
千葉県	×	4,761		1,097		537		545	
東京都	◎	-	-	-	-	0		-	-
神奈川県	×	16		-	-	4		7	
新潟県	×	4,058		363		244		4,748	
富山県	◎	814		381		3,477		4,777	
石川県	◎	692		94		1,042		1,203	
福井県	◎	1,125		122		5,386		1,687	
山梨県	◎	17		9		46		114	
長野県	×	348		250		2,427		1,502	
岐阜県	◎	2,900		217		3,429		2,995	
静岡県	×	1,014		405		729		160	
愛知県	×	1,782		210		5,530		4,173	
三重県	◎	1,785		242		6,615		4,398	
滋賀県	◎	836		261		7,721		6,542	
京都府	◎	134		108		248		196	
大阪府	○	6		-	-	1		5	
兵庫県	○	271		706		2,384		2,044	
奈良県	×	68		50		107		51	
和歌山県	◎	3		2		1		18	
鳥取県	◎	1,107		343		125		697	
島根県	◎	1,148		526		594		748	
岡山県	◎	1,529		424		2,693		1,353	
広島県	◎	534		523		226		369	
山口県	◎	790		296		1,734		845	
徳島県	◎	853		208		123		34	
香川県	◎	340		81		2,436		76	
愛媛県	◎	347		147		1,867		314	
高知県	×	970		200		7		73	
福岡県	◎	1,862		1,433		21,515		8,356	
佐賀県	◎	448		1,130		20,526		8,197	
長崎県	◎	182		1,022		1,180		349	
熊本県	◎	1,324		7,260		6,437		2,385	
大分県	◎	1,480		2,429		4,721		1,578	
宮崎県	◎	494		6,307		111		218	
鹿児島県	◎	852		3,399		105		281	
沖縄県	◎	-	-	-	-	-	-	-	-

(注1) 生産数量目標等の達成見込みは、「◎:自主的取組参考値までの深掘が見込まれる」、「○:生産数量目標の達成が見込まれる」、「×:生産数量目標の達成に向けて更なる取組が必要」で分類。

(注2) 飼料用米等の29年産は、28年産実績と比較し、「↑:増加傾向」、「→:前年並み傾向」、「↓:減少傾向」で分類。なお、「麦」「大豆」は二毛作面積を含む。

(注3) 29年3月時公表までは、生産がない県においても「→:前年並傾向」で表示していたが、本公表より「-」で表示。

## 2 米の契約・販売

### (1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

平成29年産

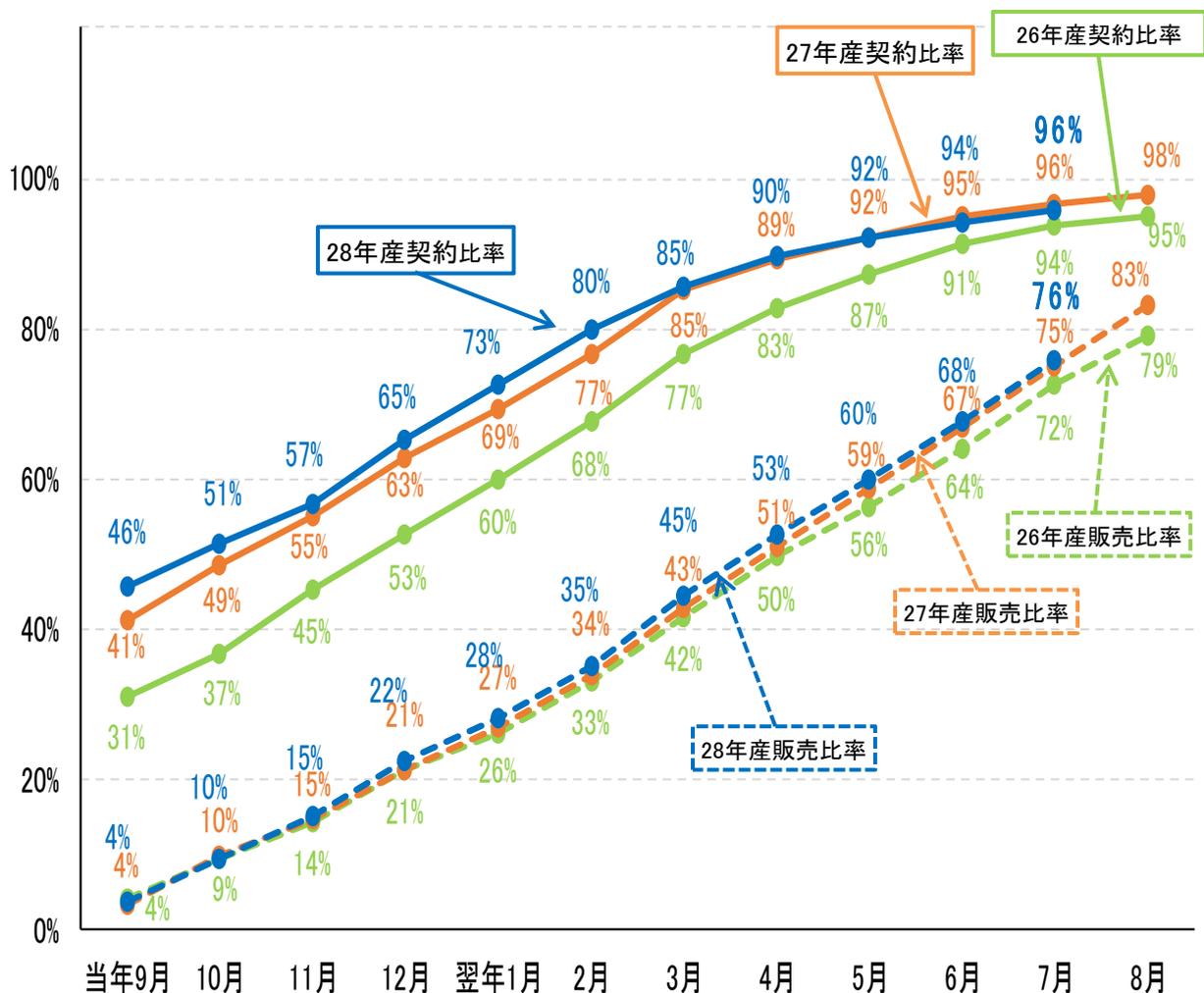
(単位:トン)

買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果								29年産 落札合計 数量
		第1回 平成29年 1月31日実施	第2回 平成29年 2月14日実施	第3回 平成29年 2月28日実施	第4回 平成29年 3月14日実施	第5回 平成29年 3月28日実施	第6回 平成29年 4月25日実施	第7回 平成29年 5月30日実施	第8回 平成29年 6月20日実施	
北海道	7,130	0	0	0						0
青森	12,271	10,360	1,911	0						12,271
岩手	5,229	5,229	0	0						5,229
宮城	6,368	306	6,062	0						6,368
秋田	17,039	17,039	0	0						17,039
山形	11,753	11,753	0	0						11,753
福島	16,443	16,443	0	0						16,443
茨城	600	600	0	0						600
栃木	5,167	3,558	1,609	0						5,167
群馬	12	12	0	0						12
埼玉	296	156	140	0						296
千葉	748	748	0	0						748
東京										
神奈川										
新潟	17,365	326	17,039	0						17,365
富山	7,947	7,947	0	0						7,947
石川	3,348	86	3,262	0						3,348
福井	2,187	20	2,167	0						2,187
山梨										
長野	585	103	482	0						585
岐阜	348	10	338	0						348
静岡	20	0	0	20						20
愛知	493	0	0	493						493
三重	422	0	422	0						422
滋賀	876	21	855	0						876
京都										
大阪										
兵庫	18	0	0	0						0
奈良										
和歌山										
鳥取	535	10	525	0						535
島根	67	0	67	0						67
岡山	1,408	1,373	35	0						1,408
広島										
山口										
徳島	337	130	207	0						337
香川										
愛媛	51	0	51	0						51
高知	10	0	10	0						10
福岡	139	10	129	0						139
佐賀	327	0	0	327						327
長崎	18	0	18	0						18
熊本	247	247	0	0						247
大分	196	0	169	0						169
宮崎										
鹿児島										
沖縄										
都道府県別枠計	120,000	76,487	35,498	840						112,825
指定無し	80,000	71,032	8,968	3,477	160	219	427	214	406	84,903
合計	200,000	147,519	44,466	4,317	160	219	427	214	406	197,728

(2) 平成28年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成29年7月末現在）

- 平成29年7月末現在の平成28年産米の集荷数量は、307万トン。
- 契約数量は、前年同月と比較して▲5万トンの294万トン。契約比率は96%。
- 販売数量は、前年同月と比較して±0万トンの233万トン。販売比率は76%。

契約・販売比率の推移(平成26～28年産)



注：平成26・27年産は、各月末時点の契約・販売数量を生産年の翌年10月末の集荷量で除して算出した最終実績ベース。

平成28年産は、各月末時点の契約・販売数量を平成29年7月末の集荷量で除して算出した直近ベースのため、今後、集荷数量の増加に伴い契約・販売比率に変動が生じる可能性がある。

集荷・契約・販売数量(北海道から千葉まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考: 前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量 (%)	契約数量 (%)	販売数量 (%)
北海道	355.7	349.1	98%	287.7	81%	▲10%	▲10%	▲6%
(ななつぼし)	171.1	168.8	99%	143.4	84%	▲5%	▲5%	▲1%
(ゆめぴりか)	78.6	78.0	99%	65.1	83%	▲4%	▲3%	+4%
(きらら397)	36.8	36.0	98%	23.2	63%	▲38%	▲39%	▲42%
青森	140.4	138.9	99%	102.9	73%	▲6%	▲4%	▲3%
(まっしぐら)	91.1	90.7	100%	65.8	72%	▲4%	▲2%	+7%
(つがるロマン)	39.9	38.7	97%	29.3	73%	▲19%	▲19%	▲27%
岩手	139.6	137.8	99%	96.3	69%	▲10%	▲11%	▲9%
(ひとめぼれ)	112.0	110.2	98%	76.3	68%	▲9%	▲10%	▲7%
(あきたこまち)	18.5	18.5	100%	14.7	79%	▲13%	▲13%	▲10%
(いわてっこ)	3.2	3.2	100%	1.1	35%	▲18%	▲18%	▲57%
宮城	180.9	175.6	97%	117.3	65%	+0%	+0%	▲4%
(ひとめぼれ)	148.7	143.8	97%	95.2	64%	▲1%	▲1%	▲6%
(ササニシキ)	10.7	10.5	98%	7.1	66%	▲5%	▲4%	▲5%
(つや姫)	12.1	12.0	99%	9.9	82%	+12%	+15%	+13%
秋田	270.7	242.3	90%	215.5	80%	▲2%	▲7%	▲2%
(あきたこまち)	218.3	200.2	92%	182.3	84%	▲4%	▲7%	▲4%
(めんこいな)	11.6	9.1	79%	7.0	60%	+6%	▲9%	▲9%
(ひとめぼれ)	24.0	21.8	90%	17.2	72%	+0%	▲8%	+16%
山形	219.6	189.6	86%	155.2	71%	+3%	+3%	+4%
(はえぬぎ)	135.2	114.1	84%	90.9	67%	+3%	+2%	+2%
(つや姫)	40.4	34.9	86%	32.0	79%	+22%	+12%	+21%
(ひとめぼれ)	21.6	19.1	88%	15.7	73%	▲3%	▲8%	+0%
福島	170.9	162.8	95%	109.8	64%	+23%	+25%	+11%
(コシヒカリ中通り)	57.2	50.7	89%	39.9	70%	+32%	+26%	+17%
(コシヒカリ会津)	48.9	48.7	100%	24.9	51%	+17%	+19%	▲5%
(コシヒカリ浜通り)	8.2	8.1	99%	4.8	58%	+56%	+54%	+95%
(ひとめぼれ)	33.1	35.6	108%	22.5	68%	+10%	+27%	+2%
(天のつぶ)	11.0	9.7	89%	7.3	67%	+22%	+24%	+4%
茨城	77.2	74.9	97%	67.1	87%	▲5%	▲16%	+9%
(コシヒカリ)	61.7	60.0	97%	53.8	87%	▲5%	▲16%	+11%
(あきたこまち)	9.1	9.1	100%	9.1	100%	▲14%	▲22%	+6%
(ゆめひたち)	0.6	0.5	96%	0.4	74%	▲27%	▲28%	▲26%
栃木	141.6	135.3	96%	94.2	67%	+0%	+2%	+21%
(コシヒカリ)	119.8	114.4	95%	78.7	66%	▲1%	+1%	+20%
(あさひの夢)	8.3	8.3	100%	5.9	71%	▲10%	▲3%	+40%
(なすひかり)	6.7	5.9	88%	4.4	66%	+0%	▲5%	+15%
群馬	21.8	21.8	100%	15.4	70%	+16%	+16%	+41%
(あさひの夢)	14.0	14.0	100%	9.3	67%	+21%	+21%	+60%
(ゆめまつり)	5.0	5.0	100%	3.8	76%	+8%	+8%	+18%
埼玉	22.3	21.1	94%	15.2	68%	+3%	+4%	+6%
(彩のかがやき)	10.8	10.2	94%	7.4	68%	+4%	+6%	+9%
(コシヒカリ)	7.0	6.5	93%	5.1	74%	▲1%	▲1%	+4%
(彩のきずな)	2.8	2.8	99%	1.5	53%	…	…	…
千葉	79.6	81.9	103%	73.3	92%	▲17%	▲14%	▲14%
(コシヒカリ)	45.1	45.3	100%	41.2	91%	▲14%	▲13%	▲10%
(ふさこがね)	14.4	15.9	111%	12.7	89%	▲14%	▲4%	▲14%
(ふさおとめ)	16.3	16.9	104%	15.6	96%	▲25%	▲23%	▲22%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないもの。

9 「参考：前年同月比」の「…」は、27年産では調査の対象銘柄でなかったこと等から、28年産との比較が出来ないもの。

集荷・契約・販売数量(東京から鳥取まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考: 前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)		(千玄米ト)		(%)	(%)	(%)
東京	-	-	-	-	-	...	...	...
神奈川県	2.9	2.5	85%	2.5	85%	+10%	+3%	+3%
山梨	6.3	5.0	79%	5.0	79%	+6%	+9%	+9%
(コシヒカリ)	5.4	4.2	78%	4.2	78%	+4%	+6%	+6%
(あさひの夢)	0.2	0.1	73%	0.1	73%	▲4%	▲1%	▲1%
長野	72.3	71.6	99%	52.1	72%	+5%	+5%	▲5%
(コシヒカリ)	57.5	57.1	99%	40.8	71%	+7%	+8%	▲4%
(あきたこまち)	8.3	8.1	98%	6.4	77%	▲5%	▲6%	▲15%
静岡県	7.2	5.9	82%	5.9	82%	▲25%	▲31%	▲31%
(コシヒカリ)	4.8	4.1	86%	4.1	86%	▲24%	▲27%	▲27%
(きぬむすめ)	0.8	0.5	65%	0.5	65%	▲27%	▲46%	▲46%
(あいちのかおり)	0.9	0.6	70%	0.6	70%	▲15%	▲23%	▲23%
新潟	285.0	278.5	98%	215.3	76%	+11%	+9%	+4%
(コシヒカリ一般)	163.4	159.8	98%	118.6	73%	+15%	+14%	+8%
(コシヒカリ魚沼)	26.1	24.5	94%	21.0	80%	+16%	+14%	+7%
(コシヒカリ岩船)	13.5	13.4	99%	10.8	80%	+11%	+12%	+8%
(コシヒカリ佐渡)	15.8	15.6	99%	12.9	81%	+4%	+4%	+5%
(こしいぶき)	43.4	42.9	99%	34.3	79%	+0%	▲1%	▲6%
富山	111.6	109.0	98%	88.1	79%	+5%	+5%	+1%
(コシヒカリ)	91.9	89.6	97%	73.7	80%	+4%	+4%	+2%
(てんたかく)	9.5	9.3	98%	7.4	78%	+3%	+2%	▲3%
石川	33.9	32.9	97%	21.6	64%	+2%	+0%	+15%
(コシヒカリ)	24.0	23.2	97%	15.7	65%	+6%	+3%	+21%
(ゆめみづほ)	6.9	6.9	100%	4.3	63%	▲12%	▲10%	▲3%
福井	64.7	63.8	99%	52.7	81%	▲1%	▲1%	▲5%
(コシヒカリ)	31.6	31.3	99%	26.0	82%	+2%	+2%	▲1%
(ハナエチゼン)	19.5	19.3	99%	16.1	83%	+0%	▲1%	▲8%
岐阜	27.5	26.9	98%	18.8	69%	▲4%	▲4%	▲6%
(ハツシモ)	11.7	11.4	97%	7.4	63%	▲12%	▲12%	▲11%
(コシヒカリ)	8.8	8.5	97%	6.1	69%	+10%	+10%	▲5%
(あきたこまち)	2.1	2.1	100%	2.0	95%	▲15%	▲15%	▲12%
愛知	37.2	33.7	91%	27.8	75%	+5%	+12%	+7%
(あいちのかおり)	18.4	16.7	91%	12.6	68%	+5%	+28%	+10%
(コシヒカリ)	11.3	10.7	94%	9.5	84%	+0%	▲3%	+2%
(大地の風)	1.5	1.2	79%	1.1	72%	▲2%	▲10%	▲15%
三重	31.8	31.8	100%	27.5	87%	+2%	+2%	+6%
(コシヒカリ一般)	18.1	18.1	100%	15.9	88%	+5%	+6%	+9%
(コシヒカリ伊賀)	6.7	6.7	100%	5.9	88%	▲4%	▲3%	+2%
(キヌヒカリ)	2.6	2.6	100%	1.6	63%	▲8%	▲7%	▲18%
滋賀	65.5	65.5	100%	56.4	86%	+3%	+2%	+3%
(コシヒカリ)	24.6	24.6	100%	21.2	86%	+3%	+3%	+4%
(キヌヒカリ)	13.5	13.5	100%	12.0	89%	▲4%	▲4%	▲5%
(日本晴)	6.6	6.6	100%	4.3	66%	▲11%	▲11%	▲8%
京都	14.4	14.4	100%	11.1	77%	+5%	+5%	+3%
(コシヒカリ)	8.6	8.6	100%	6.6	77%	+13%	+13%	+10%
(キヌヒカリ)	3.2	3.2	100%	2.6	81%	▲8%	▲8%	▲8%
大阪	-	-	-	-	-	...	...	...
兵庫	41.0	38.3	93%	32.0	78%	▲4%	▲7%	▲2%
(コシヒカリ)	11.7	11.6	99%	10.1	86%	+6%	+5%	+9%
(ヒノヒカリ)	4.6	4.4	96%	3.8	82%	▲10%	▲12%	▲10%
(キヌヒカリ)	4.2	4.1	98%	3.6	85%	▲7%	▲8%	▲11%
奈良	9.2	9.2	100%	8.7	95%	▲9%	▲9%	+11%
(ヒノヒカリ)	7.2	7.2	100%	6.8	94%	▲10%	▲10%	+9%
(コシヒカリ)	0.5	0.5	100%	0.5	99%	▲3%	▲3%	+14%
和歌山	2.1	2.1	100%	1.5	72%	+17%	+17%	+23%
鳥取	22.1	20.6	93%	18.4	83%	+1%	+0%	+1%
(コシヒカリ)	7.5	6.8	90%	6.2	82%	+11%	+9%	+8%
(きぬむすめ)	7.0	6.6	94%	6.0	85%	+2%	+4%	+13%
(ひとめぼれ)	7.1	6.9	97%	6.0	84%	▲9%	▲9%	▲12%

集荷・契約・販売数量(島根から沖縄まで、全国計)

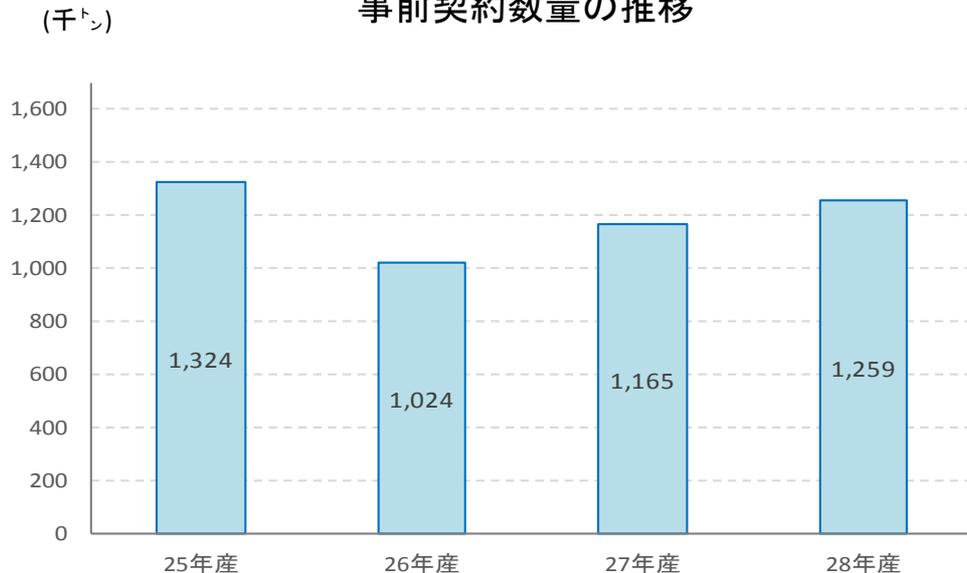
	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考: 前年同月比 (27年産の同時期との比較)		
						集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)		(千玄米ト)		(%)	(%)	(%)
<b>島 根</b>	<b>39.3</b>	<b>35.9</b>	<b>91%</b>	<b>32.7</b>	<b>83%</b>	+ 4%	▲ 2%	+ 1%
(コシヒカリ)	19.5	16.8	86%	16.0	82%	+ 7%	▲ 3%	+ 1%
(きぬむすめ)	12.8	12.0	94%	10.6	83%	▲ 7%	▲ 9%	▲ 4%
(つや姫)	4.0	4.0	100%	3.3	83%	...	...	...
<b>岡 山</b>	<b>15.0</b>	<b>15.0</b>	<b>100%</b>	<b>10.4</b>	<b>69%</b>	▲ 26%	▲ 24%	▲ 21%
(アケボノ)	2.6	2.6	100%	1.4	55%	▲ 47%	▲ 45%	▲ 38%
(あきたこまち)	1.9	1.9	100%	1.5	80%	▲ 23%	▲ 21%	▲ 22%
(ヒノヒカリ)	1.7	1.7	100%	1.0	60%	▲ 25%	▲ 20%	▲ 25%
<b>広 島</b>	<b>33.7</b>	<b>33.1</b>	<b>98%</b>	<b>27.3</b>	<b>81%</b>	▲ 1%	▲ 8%	▲ 1%
(コシヒカリ)	15.8	15.7	99%	12.6	80%	+ 6%	+ 1%	▲ 3%
(あきろまん)	3.2	3.2	99%	2.9	92%	▲ 17%	▲ 40%	▲ 8%
(ヒノヒカリ)	2.5	2.5	99%	1.8	72%	▲ 8%	▲ 15%	▲ 11%
<b>山 口</b>	<b>32.0</b>	<b>31.6</b>	<b>99%</b>	<b>22.6</b>	<b>71%</b>	▲ 8%	▲ 3%	▲ 4%
(コシヒカリ)	9.9	9.8	99%	7.1	71%	▲ 6%	+ 1%	▲ 11%
(ひとめぼれ)	8.1	8.0	99%	6.0	74%	+ 2%	+ 11%	+ 3%
(ヒノヒカリ)	6.6	6.4	98%	4.5	69%	▲ 10%	▲ 4%	▲ 1%
<b>徳 島</b>	<b>6.1</b>	<b>6.1</b>	<b>100%</b>	<b>5.6</b>	<b>92%</b>	+ 14%	+ 19%	+ 11%
(コシヒカリ)	3.5	3.4	99%	3.3	96%	+ 3%	+ 10%	+ 7%
(キヌヒカリ)	1.8	1.8	100%	1.4	80%	+ 25%	+ 25%	+ 2%
<b>香 川</b>	<b>26.4</b>	<b>26.4</b>	<b>100%</b>	<b>20.0</b>	<b>76%</b>	+ 6%	+ 6%	+ 8%
(ヒノヒカリ)	11.1	11.1	100%	8.1	73%	+ 1%	+ 1%	+ 1%
(コシヒカリ)	8.7	8.7	100%	7.2	83%	+ 15%	+ 15%	+ 18%
<b>愛 媛</b>	<b>12.4</b>	<b>9.9</b>	<b>79%</b>	<b>9.7</b>	<b>78%</b>	▲ 9%	▲ 25%	▲ 7%
(コシヒカリ)	4.7	4.1	86%	4.1	86%	+ 3%	▲ 9%	+ 2%
(ヒノヒカリ)	2.4	1.8	73%	1.7	71%	▲ 2%	▲ 28%	▲ 15%
(あきたこまち)	1.8	1.4	78%	1.4	77%	▲ 3%	▲ 23%	▲ 5%
<b>高 知</b>	<b>6.5</b>	<b>6.5</b>	<b>100%</b>	<b>6.5</b>	<b>100%</b>	+ 10%	+ 10%	+ 10%
(コシヒカリ)	5.1	5.1	100%	5.1	100%	+ 8%	+ 8%	+ 8%
(ヒノヒカリ)	0.4	0.4	100%	0.4	100%	+ 285%	+ 285%	+ 285%
<b>福 岡</b>	<b>55.4</b>	<b>52.4</b>	<b>95%</b>	<b>40.5</b>	<b>73%</b>	+ 1%	+ 5%	+ 2%
(夢つくし)	18.2	17.5	97%	14.3	79%	+ 9%	+ 12%	▲ 4%
(ヒノヒカリ)	16.0	15.6	98%	11.0	68%	▲ 12%	▲ 7%	+ 9%
(元気つくし)	18.6	16.7	89%	13.7	74%	+ 12%	+ 11%	+ 5%
<b>佐 賀</b>	<b>43.8</b>	<b>43.8</b>	<b>100%</b>	<b>34.9</b>	<b>80%</b>	▲ 4%	▲ 4%	+ 5%
(さがびより)	14.0	14.0	100%	11.6	83%	▲ 3%	▲ 2%	+ 17%
(夢しずく)	13.3	13.3	100%	10.7	81%	+ 4%	+ 4%	+ 6%
(ヒノヒカリ)	10.6	10.6	100%	7.2	68%	▲ 8%	▲ 8%	▲ 9%
<b>長 崎</b>	<b>11.7</b>	<b>11.6</b>	<b>99%</b>	<b>9.2</b>	<b>79%</b>	▲ 5%	▲ 6%	+ 8%
(にこまる)	4.7	4.6	98%	3.5	76%	▲ 9%	▲ 10%	+ 5%
(ヒノヒカリ)	3.7	3.6	99%	3.1	85%	▲ 3%	▲ 4%	+ 19%
(コシヒカリ)	1.7	1.7	99%	1.5	88%	+ 1%	+ 1%	+ 2%
<b>熊 本</b>	<b>38.2</b>	<b>32.4</b>	<b>85%</b>	<b>28.8</b>	<b>75%</b>	▲ 2%	▲ 12%	▲ 5%
(ヒノヒカリ)	16.7	15.2	91%	12.8	77%	▲ 4%	▲ 4%	+ 1%
(森のくまさん)	7.2	5.9	82%	5.2	72%	▲ 6%	▲ 18%	▲ 3%
(コシヒカリ)	6.3	4.6	73%	4.6	73%	+ 5%	▲ 23%	▲ 18%
<b>大 分</b>	<b>14.4</b>	<b>14.3</b>	<b>99%</b>	<b>10.5</b>	<b>73%</b>	▲ 6%	▲ 7%	▲ 3%
(ヒノヒカリ)	10.3	10.3	99%	7.1	69%	▲ 7%	▲ 7%	▲ 6%
(ひとめぼれ)	0.9	0.9	99%	0.7	80%	+ 11%	+ 5%	+ 22%
<b>宮 崎</b>	<b>16.3</b>	<b>16.3</b>	<b>100%</b>	<b>15.4</b>	<b>94%</b>	+ 7%	+ 7%	+ 8%
(コシヒカリ)	9.4	9.4	100%	9.4	100%	+ 7%	+ 7%	+ 7%
(ヒノヒカリ)	5.9	5.9	100%	5.0	86%	+ 9%	+ 9%	+ 10%
<b>鹿児島</b>	<b>14.9</b>	<b>14.9</b>	<b>100%</b>	<b>13.0</b>	<b>87%</b>	+ 3%	+ 3%	+ 6%
(ヒノヒカリ)	6.9	6.9	100%	5.6	80%	+ 3%	+ 3%	+ 9%
(あきほなみ)	2.8	2.8	100%	2.3	84%	+ 1%	+ 1%	+ 2%
(コシヒカリ)	3.4	3.4	100%	3.4	100%	+ 7%	+ 7%	+ 7%
<b>沖 縄</b>	<b>1.6</b>	<b>1.6</b>	<b>100%</b>	<b>1.6</b>	<b>100%</b>	+ 4%	+ 4%	+ 4%
<b>全 国 ①</b>	<b>3,067</b>	<b>2,938</b>	<b>96%</b>	<b>2,327</b>	<b>76%</b>	▲ 1%	▲ 2%	+ 0%
参考 前年同月(27年産)②	3,090	2,987	97%	2,327	75%			
参考 前年同月差(①-②)	▲ 23	▲ 49	▲ 1ポイント	0	+ 1ポイント			

### (3) 産地別事前契約数量

- 事前契約数量は、2年続けて増加、平成28年産米では、前年産に比べ10万トン多い126万トンという水準。

〔 事前契約数量とは、複数年契約、は種前契約、収穫前契約といった米の収穫時期の前にあらかじめ契約されたもの。 〕

#### 事前契約数量の推移



#### 生産法人と業務用実需者との事前契約の取組事例

- 平成24年産米の価格上昇により、中食・外食事業者においては、弁当や寿司業界等のニーズに応じた値頃感のある米の確保が困難となっていたところ。
- こうした中、A県の農業生産法人では、品質（食味）、価格条件等の実需者のニーズに応じて品種を作り分けることにより、生産量の約8割を事前契約や複数年契約で安定的な取引を実現。
- 例えば、当該農業生産法人は、炊飯事業者との取引において、希望のあった品種を一定の数量、価格で事前契約を行っており、翌年産米の取引では、前年の10倍の数量契約を締結し、安定した品質の米を納入。現在まで契約数量の全てが納入済といった状況。価格は、生産コストや流通コスト等を踏まえた再生産可能な価格を基本に実需者と協議して決定。

#### 農業生産法人

- 経営安定のため、事前契約率を高めたい。
- 販売先だけでなく、事前に価格が決まっているのは生産者にとってありがたい。
- 概ね年内中に引き取ってくれるので余計なコスト負担がない。

契約

双方がウィンウィンの取引に！

#### 炊飯事業者

- 安定的な数量の確保。
- 食味の良さと品質のバラつきのなさを実感。
- 品種に応じて白飯や酢飯に使い分けている。
- 業務用といっても安ければいいということではなく、一定の価格で安定取引ができる。

# 産地別事前契約及び複数年契約の状況

(玄米千トン)

産地	平成27年産					平成28年産(平成29年7月末現在)				
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 ④	うち事前契約 ⑤	事前契約比率 ⑤/④	うち複数年契約 ⑥	複数年契約比率 ⑥/④
北海道	398.3	150.0	38%	75.1	19%	355.7	169.6	48%	43.4	12%
青森	148.1	45.8	31%	5.0	3%	140.4	45.1	32%	32.9	23%
岩手	156.0	70.9	45%	26.1	17%	139.6	91.1	65%	84.7	61%
宮城	181.4	108.6	60%	20.2	11%	180.9	112.0	62%	84.5	47%
秋田	277.8	80.1	29%	1.7	1%	270.7	83.2	31%	57.4	21%
山形	215.6	55.3	26%	-	-	219.6	52.3	24%	1.5	1%
福島	137.7	32.0	23%	-	-	170.9	52.0	30%	26.1	15%
茨城	81.5	46.6	57%	-	-	77.2	27.6	36%	-	-※
栃木	142.0	61.2	43%	-	-	141.6	60.3	43%	49.5	35%
群馬	18.9	-	-	-	-	21.8	-	-	-	-※
埼玉	21.8	5.8	27%	-	-	22.3	8.2	37%	-	-※
千葉	95.5	41.3	43%	-	-	79.6	34.0	43%	2.2	3%
東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-※
神奈川	2.7	-	-	-	-	2.9	-	-	-	-※
山梨	6.0	-	-	-	-	6.3	-	-	-	-※
長野	69.1	21.5	31%	9.4	14%	72.3	26.3	36%	23.7	33%
静岡	9.6	-	-	-	-	7.2	-	-	-	-※
新潟	258.1	144.7	56%	14.5	6%	285.0	141.3	50%	87.4	31%
富山	106.5	29.5	28%	-	-	111.6	43.7	39%	-	-※
石川	33.2	14.0	42%	2.1	6%	33.9	20.1	59%	1.6	5%
福井	65.3	7.3	11%	7.3	11%	64.7	6.8	10%	6.8	11%
岐阜	28.8	9.5	33%	-	-	27.5	12.0	44%	-	-※
愛知	35.8	10.6	30%	-	-	37.2	15.1	41%	-	-※
三重	31.3	16.5	53%	-	-	31.8	17.8	56%	-	-※
滋賀	63.8	38.3	60%	-	-	65.5	46.8	71%	36.0	55%
京都	13.8	6.1	44%	0.3	2%	14.4	8.0	55%	0.3	2%
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-※
兵庫	42.9	-	-	-	-	41.0	-	-	-	-※
奈良	10.0	-	-	-	-	9.2	-	-	-	-※
和歌山	1.8	1.5	86%	-	-	2.1	1.7	83%	-	-※
鳥取	22.1	5.7	26%	-	-	22.1	6.0	27%	-	-※
島根	37.9	18.7	49%	-	-	39.3	31.9	81%	0.8	2%
岡山	20.4	-	-	-	-	15.0	-	-	-	-※
広島	33.8	20.4	60%	-	-	33.7	27.0	80%	2.0	6%
山口	34.6	22.9	66%	-	-	32.0	24.3	76%	0.6	2%
徳島	5.3	-	-	-	-	6.1	-	-	-	-※
香川	25.2	12.2	48%	-	-	26.4	12.9	49%	-	-※
愛媛	13.8	-	-	-	-	12.4	-	-	-	-※
高知	6.0	1.2	20%	-	-	6.5	1.1	18%	-	-※
福岡	55.0	27.3	50%	-	-	55.4	30.3	55%	-	-※
佐賀	45.6	23.9	53%	-	-	43.8	25.2	58%	-	-※
長崎	12.3	-	-	-	-	11.7	-	-	-	-※
熊本	39.5	21.3	54%	-	-	38.2	16.0	42%	-	-※
大分	15.5	1.1	7%	-	-	14.4	1.5	10%	-	-※
宮崎	15.2	13.2	86%	-	-	16.3	8.4	52%	-	-※
鹿児島	14.5	-	-	-	-	14.9	-	-	-	-※
沖縄	1.6	-	-	-	-	1.6	-	-	-	-※
全国	3,096	1,165	38%	162	5%	3,067	1,259	41%	542	18%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 平成27年産は生産年の翌年10月末時点、28年産は平成29年7月末時点の数量である。

4 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

5 事前契約分とは、3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

6 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

7 「-」は、集荷数量や事前契約等に該当がないもの。

8 欄外の「※」は、平成28年産に複数年契約の取組がない産地である。

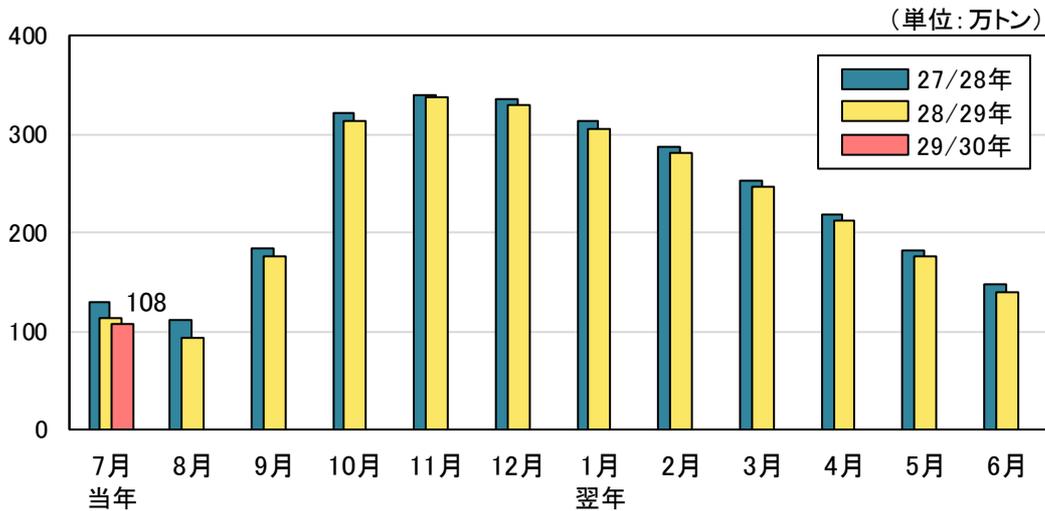
### Ⅲ 米の在庫情報

#### (1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成29年7月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月▲6万トンの108万トンとなっている。

※ 都道府県別在庫量は、20頁以降参照。

#### 【出荷＋販売段階】



(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5
23年産米	0	8	106	273	304	300	275	246	214	177	141	108
1年古米(22年産)	69	37	19	13	11	8	6	5	2	2	1	1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	313	338	329	306	282	248	212	177	140
対前年差	▲16	▲19	▲8	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲6	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	263	233	201	168	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108											
対前年差	▲6											
29年産米	1											
1年古米(28年産)	103											

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 期間については、29/30年であれば、29年7月～30年6月である。

5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。

7 米穀機種の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

## 【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
23年産米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
1年古米(22年産)	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲13	▲17	▲12	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	107	239	268	265	252	230	197	167	140	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	85											
対前年差	▲4											
29年産米	1											
1年古米(28年産)	83											

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

## 【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	±0	+2	+1
23年産米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
1年古米(22年産)	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	28
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23											
対前年差	▲2											
29年産米	0											
1年古米(28年産)	20											

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

## (2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成28年産(29年7月末)

【出荷＋販売段階】

(単位:千トン)

産地	28年産 (H29.7末)	27年産 (H28.7末)	前年 同月比	産地	28年産 (H29.7末)	27年産 (H28.7末)	前年 同月比
北海道	95.3	114.6	83%	滋賀	14.7	15.3	96%
青森	57.0	61.2	93%	京都	5.2	5.0	105%
岩手	50.1	56.0	90%	大阪	0.9	0.7	121%
宮城	78.8	68.9	114%	兵庫	15.4	14.6	105%
秋田	74.4	73.6	101%	奈良	2.1	2.6	81%
山形	79.1	80.9	98%	和歌山	0.8	0.8	93%
福島	80.7	62.3	130%	鳥取	7.2	6.9	104%
茨城	28.2	40.1	70%	島根	8.2	7.0	116%
栃木	61.8	74.6	83%	岡山	14.8	17.1	86%
群馬	8.3	10.2	82%	広島	10.3	9.5	108%
埼玉	12.8	10.8	118%	山口	11.1	12.6	88%
千葉	16.4	19.5	84%	徳島	2.1	1.7	122%
東京	0.0	0.0	-	香川	7.3	7.1	104%
神奈川	0.5	0.3	172%	愛媛	3.9	4.6	84%
新潟	89.4	66.7	134%	高知	3.1	2.1	150%
富山	31.3	27.1	116%	福岡	22.1	20.5	108%
石川	17.5	19.0	92%	佐賀	10.2	14.3	71%
福井	15.8	15.3	103%	長崎	3.2	4.6	68%
山梨	1.7	1.6	101%	熊本	15.1	16.2	93%
長野	24.7	19.3	127%	大分	6.3	6.9	92%
岐阜	10.9	10.6	103%	宮崎	3.4	3.5	98%
静岡	2.8	2.2	126%	鹿児島	6.8	7.9	85%
愛知	12.4	12.2	102%	沖縄	0.0	0.0	-
三重	7.1	8.2	86%	全国計	1,032	1,038	99%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

### (3) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

（北海道から秋田）

（単位：千玄米トン）

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	出荷＋販売段階	96.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	95.3											
	出荷段階	70.6											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	70.3											
	販売段階	26.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	25.0											
	青森	出荷＋販売段階	58.3										
29年産米													
1年古米(28年産)		57.0											
出荷段階		45.1											
29年産米													
1年古米(28年産)		45.0											
販売段階		13.2											
29年産米													
1年古米(28年産)		12.0											
岩手		出荷＋販売段階	51.2										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	50.1											
	出荷段階	44.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	44.2											
	販売段階	6.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.0											
	宮城	出荷＋販売段階	80.1										
29年産米													
1年古米(28年産)		78.8											
出荷段階		69.4											
29年産米													
1年古米(28年産)		69.1											
販売段階		10.7											
29年産米													
1年古米(28年産)		9.7											
秋田		出荷＋販売段階	78.6										
	29年産米												
	1年古米(28年産)	74.4											
	出荷段階	62.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	60.1											
	販売段階	16.3											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	14.3											

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上若しくは年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、29年産米と1年古米（28年産）の合計と一致しない場合がある。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	82.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	79.1											
	出荷段階	71.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	70.4											
	販売段階	10.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	8.7											
福島	出荷+販売段階	82.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	80.7											
	出荷段階	65.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	64.7											
	販売段階	17.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	16.0											
茨城	出荷+販売段階	28.6											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	28.2											
	出荷段階	15.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	15.7											
	販売段階	12.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	12.6											
栃木	出荷+販売段階	66.1											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	61.8											
	出荷段階	49.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	48.2											
	販売段階	16.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	13.5											
群馬	出荷+販売段階	8.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	8.3											
	出荷段階	6.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.5											
	販売段階	2.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.8											
埼玉	出荷+販売段階	12.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	12.8											
	出荷段階	8.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	8.4											
	販売段階	4.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	4.4											

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	16.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	16.4											
	出荷段階	10.6											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	10.6											
	販売段階	5.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	5.8											
東京	出荷+販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	出荷段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.5											
	出荷段階	0.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.5											
	販売段階												
	29年産米												
	1年古米(28年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.7											
	出荷段階	1.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.3											
	販売段階	0.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.3											
長野	出荷+販売段階	24.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	24.7											
	出荷段階	21.6											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	21.6											
	販売段階	3.3											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	3.1											
静岡	出荷+販売段階	2.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	2.8											
	出荷段階	2.1											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	2.1											
	販売段階	0.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.7											

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	93.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	89.4											
	出荷段階	80.0											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	77.6											
	販売段階	13.9											
29年産米													
1年古米(28年産)	11.8												
富山	出荷+販売段階	31.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	31.3											
	出荷段階	25.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	25.2											
	販売段階	6.3											
29年産米													
1年古米(28年産)	6.1												
石川	出荷+販売段階	17.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	17.5											
	出荷段階	14.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	14.1											
	販売段階	3.5											
29年産米													
1年古米(28年産)	3.4												
福井	出荷+販売段階	15.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	15.8											
	出荷段階	12.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	12.7											
	販売段階	3.1											
29年産米													
1年古米(28年産)	3.1												
岐阜	出荷+販売段階	12.0											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	10.9											
	出荷段階	9.0											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	8.9											
	販売段階	3.0											
29年産米													
1年古米(28年産)	2.0												
愛知	出荷+販売段階	12.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	12.4											
	出荷段階	10.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	10.8											
	販売段階	2.0											
29年産米													
1年古米(28年産)	1.6												

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
三重	出荷+販売段階	7.6												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	7.1												
	出荷段階	5.6												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	5.3												
	販売段階	2.0												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	1.8												
	滋賀	出荷+販売段階	15.1											
		29年産米												
		1年古米(28年産)	14.7											
出荷段階		12.3												
29年産米														
1年古米(28年産)		11.9												
販売段階		2.9												
29年産米														
1年古米(28年産)		2.8												
京都		出荷+販売段階	5.3											
		29年産米												
		1年古米(28年産)	5.2											
	出荷段階	4.0												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	4.0												
	販売段階	1.3												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	1.3												
	大阪	出荷+販売段階	0.9											
		29年産米												
		1年古米(28年産)	0.9											
出荷段階		0.7												
29年産米														
1年古米(28年産)		0.7												
販売段階		0.2												
29年産米														
1年古米(28年産)		0.2												
兵庫		出荷+販売段階	15.7											
		29年産米												
		1年古米(28年産)	15.4											
	出荷段階	13.2												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	13.2												
	販売段階	2.5												
	29年産米													
	1年古米(28年産)	2.1												
	奈良	出荷+販売段階	2.2											
		29年産米												
		1年古米(28年産)	2.1											
出荷段階		0.5												
29年産米														
1年古米(28年産)		0.5												
販売段階		1.7												
29年産米														
1年古米(28年産)		1.6												

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.8											
	出荷段階	0.6											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.6											
鳥取	出荷+販売段階	7.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	7.2											
	出荷段階	5.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	5.2											
島根	出荷+販売段階	8.3											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	8.2											
	出荷段階	6.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.7											
岡山	出荷+販売段階	14.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	14.8											
	出荷段階	11.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	11.4											
広島	出荷+販売段階	10.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	10.3											
	出荷段階	7.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	7.5											
山口	出荷+販売段階	11.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	11.1											
	出荷段階	10.0											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	10.0											
	販売段階	1.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.1											

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.3											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	2.1											
	出荷段階	0.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.7											
	販売段階	1.6											
29年産米													
1年古米(28年産)	1.4												
香川	出荷+販売段階	7.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	7.3											
	出荷段階	6.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.4											
	販売段階	1.1											
29年産米													
1年古米(28年産)	0.9												
愛媛	出荷+販売段階	4.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	3.9											
	出荷段階	3.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	3.5											
	販売段階	0.4											
29年産米													
1年古米(28年産)	0.4												
高知	出荷+販売段階	3.7											
	29年産米	0.4											
	1年古米(28年産)	3.1											
	出荷段階	1.1											
	29年産米	0.1											
	1年古米(28年産)	0.9											
	販売段階	2.6											
29年産米	0.3												
1年古米(28年産)	2.2												
福岡	出荷+販売段階	22.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	22.1											
	出荷段階	18.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	18.8											
	販売段階	3.6											
29年産米													
1年古米(28年産)	3.3												
佐賀	出荷+販売段階	10.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	10.2											
	出荷段階	9.1											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	9.1											
	販売段階	1.3											
29年産米													
1年古米(28年産)	1.1												

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	3.2											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	3.2											
	出荷段階	2.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	2.8											
	販売段階	0.3											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	0.3											
熊本	出荷+販売段階	15.4											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	15.1											
	出荷段階	11.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	11.5											
	販売段階	3.9											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	3.6											
大分	出荷+販売段階	6.5											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	6.3											
	出荷段階	4.8											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	4.8											
	販売段階	1.7											
	29年産米												
	1年古米(28年産)	1.6											
宮崎	出荷+販売段階	10.2											
	29年産米	6.7											
	1年古米(28年産)	3.4											
	出荷段階	8.2											
	29年産米	5.9											
	1年古米(28年産)	2.3											
	販売段階	1.9											
	29年産米	0.8											
	1年古米(28年産)	1.1											
鹿児島	出荷+販売段階	7.7											
	29年産米	0.5											
	1年古米(28年産)	6.8											
	出荷段階	5.4											
	29年産米	0.1											
	1年古米(28年産)	5.0											
	販売段階	2.2											
	29年産米	0.4											
	1年古米(28年産)	1.7											
沖縄	出荷+販売段階	0.6											
	29年産米	0.6											
	1年古米(28年産)												
	出荷段階	0.3											
	29年産米	0.3											
	1年古米(28年産)												
	販売段階	0.3											
	29年産米	0.3											
	1年古米(28年産)												

# IV 米の価格情報

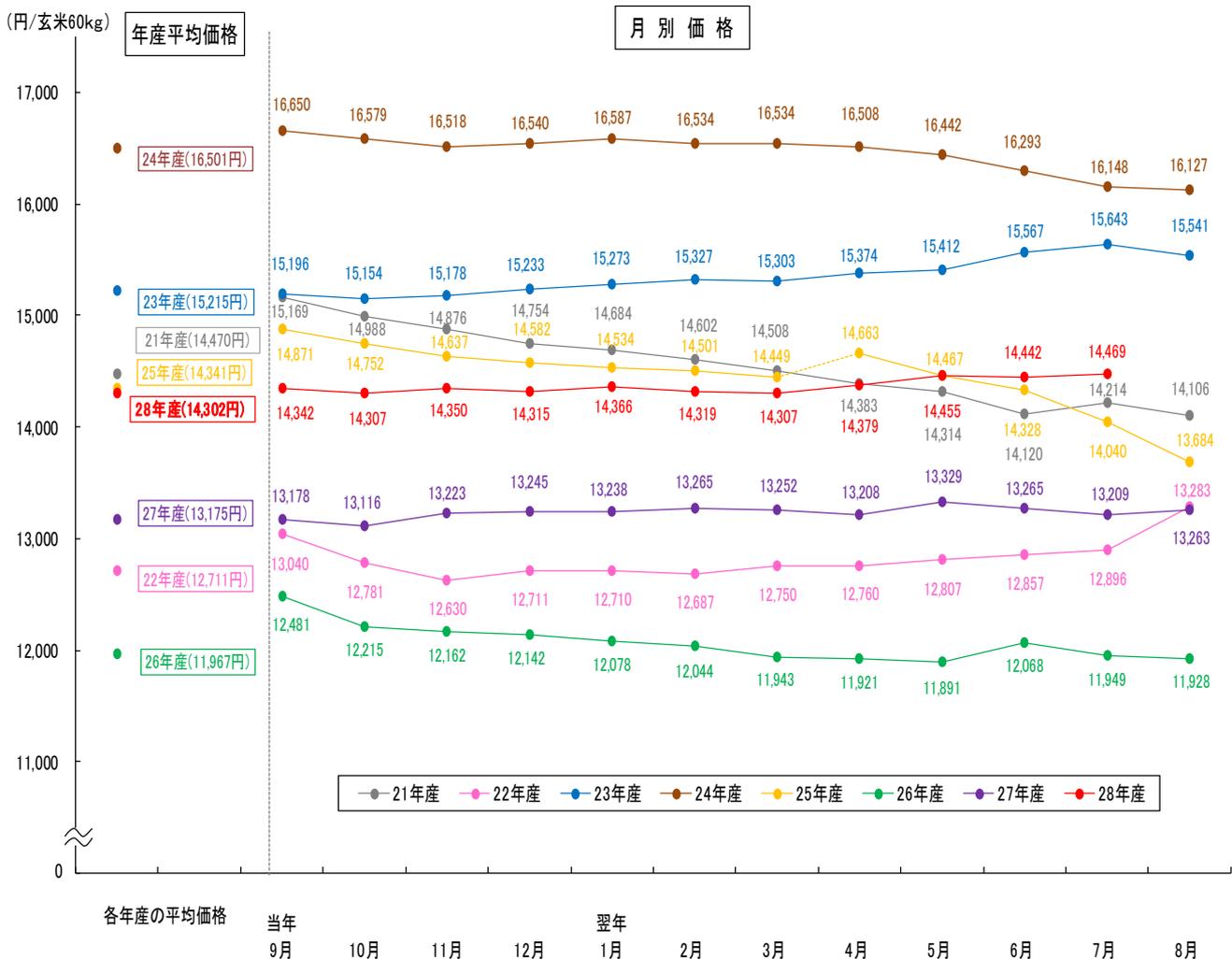
## 1 相対取引価格・数量

### (1) 相対取引価格（年産別）

- 平成28年産米の平成29年7月の全銘柄平均価格は、前年産の同時期と比べ+1,260円/60kg。

※ 産地銘柄ごとの価格は、30頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）  
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（5%。ただし、25年産の26年4月分以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（28年産は平成29年7月）までの通年平均価格。（28年産は速報値ベース）

## (2) 価格帯別分析結果（平成29年7月）

- 平成27年産米と平成28年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成27年産の価格が13,000円以上の銘柄は+629円、11,000円未満の銘柄では+2,259円。
- 産地銘柄ごとでは、「福島県産天のつぶ」が最も上昇しており、次いで、「福島県産ひとめぼれ」、「福島県産コシヒカリ（浜通り）」という状況。

### 価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	平成27年産の相対取引価格			
	13,000円以上の銘柄の平均	13,000円～12,000円の銘柄の平均	12,000円～11,000円の銘柄の平均	11,000円未満の銘柄の平均
平成27年産(出回り～28年10月) ①	14,625	12,640	11,606	10,839
平成28年産(出回り～29年7月) (27年産価格帯ベース) ②	15,254	13,834	13,297	13,098
価格差 ②-①	+ 629	+ 1,194	+ 1,691	+ 2,259

### 平成27年産と平成28年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

			平成27年産 (出回り～平成28年10月) ①	平成28年産 (出回り～平成29年7月) ②	価格差 ②-①
福島	天のつぶ		10,530	13,340	+ 2,810
福島	ひとめぼれ		11,146	13,393	+ 2,247
福島	コシヒカリ	浜通り	11,138	13,374	+ 2,236
茨城	ゆめひたち		10,795	13,027	+ 2,232
栃木	あさひの夢		11,382	13,578	+ 2,196
群馬	ゆめまつり		11,525	13,622	+ 2,097
千葉	ふさおとめ		10,988	12,993	+ 2,005
群馬	あさひの夢		11,844	13,816	+ 1,972
岡山	あきたこまち		11,885	13,842	+ 1,957
栃木	なすひかり		12,021	13,919	+ 1,898

### (3) 相対取引価格・数量（平成28年産米、産地品種銘柄別、平成29年7月分）

#### 相対取引価格・数量①（北海道から栃木まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年7月) ①	数量 28年産米 (29年7月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米 〔出回り～ 29年7月〕	27年産米 〔出回り～ 28年10月〕	対前年比 /
				28年産米 (29年6月)	対前月比	27年産米 (28年7月)	対前年比	28年産米 (29年6月)	対前月比	27年産米 (28年7月)	対前年比			
				/	/	/	/	/	/	/	/			
北海道	ななつぼし	14,795	3,138	14,704	101%	13,171	112%	3,417	92%	5,363	59%	14,227	13,117	108%
北海道	ゆめぴりか	17,054	999	17,197	99%	16,289	105%	1,294	77%	2,019	49%	16,478	16,209	102%
北海道	きらら397	14,586	377	14,913	98%	12,944	113%	648	58%	992	38%	14,141	12,508	113%
青森	まっしぐら	13,176	1,171	13,106	101%	11,613	113%	1,547	76%	3,492	34%	13,208	11,582	114%
青森	つがるロマン	14,192	556	13,905	102%	12,316	115%	888	63%	966	58%	13,413	11,787	114%
岩手	ひとめぼれ	14,303	1,595	14,027	102%	13,076	109%	3,947	40%	778	205%	13,836	12,930	107%
岩手	あきたこまち	-	-	13,667	-	12,128	-	309	-	209	-	13,472	12,422	108%
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,242	11,898	111%
宮城	ひとめぼれ	13,965	1,323	14,254	98%	12,798	109%	1,542	86%	2,051	65%	13,942	12,827	109%
宮城	ササニシキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,113	12,815	110%
宮城	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,375	13,393	107%
秋田	あきたこまち	14,148	8,332	14,217	100%	12,842	110%	7,739	108%	11,379	73%	14,176	12,845	110%
秋田	めんこいな	13,309	347	13,356	100%	11,744	113%	324	107%	236	147%	13,418	11,928	112%
秋田	ひとめぼれ	13,637	1,034	13,648	100%	11,917	114%	713	145%	690	150%	13,688	12,066	113%
山形	はえぬき	13,755	2,693	13,267	104%	12,321	112%	3,628	74%	5,427	50%	13,836	12,445	111%
山形	つや姫	18,140	827	17,265	105%	18,051	100%	1,445	57%	1,539	54%	17,866	17,953	100%
山形	ひとめぼれ	14,117	606	15,531	91%	12,437	114%	1,631	37%	787	77%	14,547	13,227	110%
福島	コシヒカリ(中通り)	13,828	2,554	13,937	99%	12,040	115%	1,696	151%	2,797	91%	13,879	12,048	115%
福島	コシヒカリ(会津)	14,361	1,952	14,154	101%	12,789	112%	1,066	183%	170	1148%	14,202	13,424	106%
福島	コシヒカリ(浜通り)	13,249	1,045	-	-	-	-	-	-	-	-	13,374	11,138	120%
福島	ひとめぼれ	13,811	1,066	13,633	100%	11,185	122%	652	163%	1,264	84%	13,393	11,146	120%
福島	天のつぶ	13,153	535	13,364	98%	10,756	122%	173	309%	376	142%	13,340	10,530	127%
茨城	コシヒカリ	14,259	1,281	14,439	99%	12,737	112%	2,002	64%	2,199	58%	13,758	12,648	109%
茨城	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,242	11,769	113%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,027	10,795	121%
栃木	コシヒカリ	14,004	2,810	14,090	99%	12,699	110%	3,636	77%	3,626	77%	13,824	12,904	107%
栃木	あさひの夢	13,264	277	13,356	99%	11,115	119%	158	175%	469	59%	13,578	11,382	119%
栃木	なすひかり	13,903	237	13,921	100%	11,569	120%	173	137%	173	137%	13,919	12,021	116%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
- 2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。  
ただし、全農が締結する「福島、茨城、鳥取、岡山、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。
- 3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。
- 4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。
- 5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。
- 6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。
- 7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。
- 8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。
- 9 斜線は、当該年産米において産地品種銘柄の報告対象でなかったもの。

相対取引価格・数量②（群馬から兵庫まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年7月) ①	数量 28年産米 (29年7月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米 (出回り～ 29年7月)	27年産米 (出回り～ 28年10月)	対前年比
				28年産米 (29年6月)	対前月比	27年産米 (28年7月)	対前年比	28年産米 (29年6月)	対前月比	27年産米 (28年7月)	対前年比			
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				
群馬	あさひの夢	13,500	437	13,500	100%	11,308	119%	528	83%	532	82%	13,816	11,844	117%
群馬	ゆめまつり	13,500	238	13,500	100%	11,289	120%	179	133%	734	32%	13,622	11,525	118%
埼玉	彩のかがやき	-	-	13,500	-	-	-	127	-	-	-	13,364	11,878	113%
埼玉	コシヒカリ	-	-	13,740	-	-	-	296	-	-	-	13,832	12,878	107%
埼玉	彩のきずな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,301	-	-
千葉	コシヒカリ	13,871	346	13,880	100%	12,397	112%	535	65%	1,312	26%	13,718	12,530	109%
千葉	ふさこがね	12,926	218	13,018	99%	11,366	114%	204	107%	155	141%	12,833	11,120	115%
千葉	ふさおとめ	13,167	137	13,173	100%	-	-	466	29%	-	-	12,993	10,988	118%
山梨	コシヒカリ	16,861	439	16,876	100%	13,905	121%	441	100%	1,004	44%	16,988	15,993	106%
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,682	13,328	103%
長野	コシヒカリ	-	-	14,427	-	-	-	2,891	-	-	-	14,538	13,782	105%
長野	あきたこまち	-	-	13,558	-	-	-	392	-	-	-	13,597	12,485	109%
静岡	コシヒカリ	14,914	238	14,785	101%	14,360	104%	406	59%	205	116%	14,838	14,238	104%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,269	12,618	105%
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,385	12,638	106%
新潟	コシヒカリ(一般)	15,856	1,064	16,295	97%	15,606	102%	8,645	12%	1,605	66%	16,182	16,186	100%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	21,292	653	20,858	102%	20,944	102%	1,399	47%	833	78%	20,397	20,442	100%
新潟	コシヒカリ(岩船)	-	-	16,937	-	-	-	1,081	-	-	-	16,834	16,628	101%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	-	-	16,957	-	16,100	-	1,075	-	137	-	16,967	16,600	102%
新潟	こしいぶき	13,666	533	13,662	100%	12,346	111%	2,460	22%	212	251%	13,668	12,412	110%
富山	コシヒカリ	14,890	1,726	14,883	100%	14,115	105%	3,552	49%	2,562	67%	15,104	14,228	106%
富山	てんたかく	-	-	13,673	-	-	-	233	-	-	-	13,862	12,563	110%
石川	コシヒカリ	-	-	15,104	-	-	-	139	-	-	-	14,816	13,901	107%
石川	ゆめみづほ	-	-	13,288	-	11,821	-	526	-	181	-	13,233	11,899	111%
福井	コシヒカリ	14,937	278	15,152	99%	14,425	104%	292	95%	164	170%	14,929	14,206	105%
福井	ハナエチゼン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,531	12,519	108%
岐阜	ハツシモ	14,500	126	-	-	13,473	108%	-	-	188	67%	13,956	12,798	109%
岐阜	コシヒカリ	14,415	220	14,535	99%	14,772	98%	170	129%	158	139%	15,154	14,307	106%
岐阜	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,220	12,535	105%
愛知	あいちのかおり	13,579	765	13,607	100%	12,363	110%	951	80%	402	190%	13,467	12,382	109%
愛知	コシヒカリ	-	-	14,122	-	-	-	122	-	-	-	13,792	13,210	104%
愛知	大地の風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,447	12,051	112%
三重	コシヒカリ(一般)	-	-	14,530	-	-	-	927	-	-	-	14,369	13,625	105%
三重	コシヒカリ(伊賀)	-	-	14,962	-	-	-	126	-	-	-	14,781	14,131	105%
三重	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,356	12,558	106%
滋賀	コシヒカリ	14,224	142	14,310	99%	-	-	599	24%	-	-	14,345	13,601	105%
滋賀	キヌヒカリ	13,285	211	13,415	99%	-	-	212	100%	-	-	13,271	12,258	108%
滋賀	日本晴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12,910	11,859	109%
京都	コシヒカリ	15,069	106	14,351	105%	-	-	1,416	7%	-	-	15,194	14,109	108%
京都	キヌヒカリ	14,078	329	13,905	101%	-	-	136	242%	-	-	13,706	12,729	108%
兵庫	コシヒカリ	-	-	15,281	-	14,145	-	151	-	191	-	15,192	14,439	105%
兵庫	ヒノヒカリ	-	-	-	-	12,971	-	-	-	118	-	13,199	12,000	110%
兵庫	キヌヒカリ	-	-	-	-	13,041	-	-	-	112	-	13,171	11,961	110%

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年7月) ①	数量 28年産米 (29年7月) ②	参 考								年産平均価格		
				価格				数量				28年産米 〔出回り～ 29年7月〕	27年産米 〔出回り～ 28年10月〕	対前年比 /
				28年産米 (29年6月)	対前月比	27年産米 (28年7月)	対前年比	28年産米 (29年6月)	対前月比	27年産米 (28年7月)	対前年比			
奈良	ヒノヒカリ	12,588	146	12,607	100%	11,746	107%	103	142%	756	19%	12,914	12,123	107%
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,158	12,525	105%
鳥取	コシヒカリ	14,044	161	-	-	-	-	-	-	-	-	14,006	13,306	105%
鳥取	きぬむすめ	-	-	13,126	-	-	-	200	-	-	-	13,162	12,316	107%
鳥取	ひとめぼれ	13,180	319	-	-	-	-	-	-	-	-	13,064	12,112	108%
島根	コシヒカリ	15,603	717	14,828	105%	14,697	106%	1,545	46%	209	343%	14,765	13,606	109%
島根	きぬむすめ	13,511	423	13,889	97%	12,572	107%	418	101%	136	311%	13,413	12,511	107%
島根	つや姫	-	-	14,659	-	-	-	578	-	-	-	14,524	-	-
岡山	アケボノ	-	-	-	-	11,506	-	-	-	120	-	13,361	11,536	116%
岡山	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,842	11,885	116%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,804	12,051	115%
広島	コシヒカリ	-	-	13,871	-	12,767	-	3,537	-	844	-	14,157	12,933	109%
広島	あきろまん	-	-	12,969	-	-	-	288	-	-	-	13,155	11,983	110%
広島	ヒノヒカリ	12,960	107	12,749	102%	-	-	569	19%	-	-	12,835	11,764	109%
山口	コシヒカリ	-	-	14,561	-	13,990	-	758	-	108	-	14,446	13,708	105%
山口	ひとめぼれ	-	-	13,531	-	-	-	290	-	-	-	13,295	12,648	105%
山口	ヒノヒカリ	-	-	13,466	-	-	-	294	-	-	-	13,353	12,696	105%
徳島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,035	12,970	108%
徳島	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,275	11,561	115%
香川	ヒノヒカリ	13,167	884	13,193	100%	12,258	107%	1,039	85%	789	112%	13,190	12,322	107%
香川	コシヒカリ	13,942	881	13,927	100%	13,324	105%	892	99%	789	112%	13,863	13,343	104%
愛媛	コシヒカリ	13,124	298	13,136	100%	12,339	106%	354	84%	229	130%	13,333	12,536	106%
愛媛	ヒノヒカリ	12,347	164	12,352	100%	-	-	131	125%	-	-	12,481	11,740	106%
愛媛	あきたこまち	-	-	12,355	-	-	-	163	-	-	-	12,545	11,732	107%
高知	コシヒカリ	-	-	13,860	-	-	-	1,413	-	-	-	14,481	13,511	107%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,602	12,630	108%
福岡	夢つくし	15,893	340	15,632	102%	15,434	103%	1,075	32%	191	178%	15,791	15,215	104%
福岡	ヒノヒカリ	14,341	123	14,324	100%	13,090	110%	839	15%	453	27%	14,191	13,493	105%
福岡	元気つくし	15,803	677	15,660	101%	15,412	103%	1,180	57%	218	311%	15,600	14,998	104%
佐賀	さがびより	14,194	600	14,135	100%	14,194	100%	734	82%	892	67%	14,127	14,089	100%
佐賀	夢しずく	13,384	556	13,407	100%	12,919	104%	598	93%	801	69%	13,325	12,940	103%
佐賀	ヒノヒカリ	12,999	252	12,945	100%	12,665	103%	298	85%	802	31%	13,092	12,630	104%
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,714	14,180	104%
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,397	13,857	104%
長崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,193	14,785	103%
熊本	ヒノヒカリ	14,181	949	14,350	99%	13,611	104%	1,600	59%	944	101%	14,241	13,608	105%
熊本	森のくまさん	14,760	160	14,619	101%	14,260	104%	1,638	10%	153	105%	14,526	14,330	101%
熊本	コシヒカリ	15,615	388	16,022	97%	14,841	105%	1,960	20%	288	135%	15,786	14,534	109%
大分	ヒノヒカリ	-	-	14,170	-	12,872	-	316	-	133	-	14,170	13,197	107%
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,453	13,402	108%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,721	14,266	103%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	12,194	-	-	-	295	-	14,341	13,622	105%
鹿児島	ヒノヒカリ	15,510	298	15,190	102%	14,545	107%	183	163%	203	147%	15,201	14,229	107%
鹿児島	あきほなみ	16,427	130	16,510	99%	14,817	111%	172	76%	127	102%	15,385	14,822	104%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,222	14,414	106%
全銘柄平均価格、合計数量		14,469	52,929	14,442	100%	13,204	110%	93,308	57%	68,450	77%	14,302	13,175	109%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

## (4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

### スポット価格 [日本コメ市場株式会社]

税抜価格

#### 【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)									15,193			
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)								14,106				
青森まっしぐら	日本コメ市場(取引会)		12,925										
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)				13,093	13,175		13,451					
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)					13,500	13,557		13,500				
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)							13,550					14,367
	日本コメ市場(取引会)												14,700
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600
	日本コメ市場(取引会)		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390	
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)									13,360			
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)								13,481	13,631	14,011	14,250	
	日本コメ市場(取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700			
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	12,834											
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168	
	日本コメ市場(取引会)					13,145							14,350
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)					12,900	12,919						
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		12,913						13,310				
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	12,661											
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)										14,717	14,864	14,933
	日本コメ市場(取引会)		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300
富山コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)												14,412

#### 【平成27年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)		12,406										
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)										12,400		
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)				11,400	11,638	11,623	11,883					12,462
	日本コメ市場(取引会)												12,700
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)						12,446	12,648	13,241				
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)			12,196						14,337			
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)	11,724	11,722		12,000	12,046	12,255	12,768	13,960	14,425	14,240	13,483	
	日本コメ市場(取引会)		11,732			12,048		12,455	14,070			13,352	13,689
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)		11,429			12,053	12,000	12,064	12,640	12,771		12,322	
	日本コメ市場(取引会)											12,169	12,550
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)			11,503					12,688				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)	11,463	11,661	11,800	11,938		12,299	12,172	12,733	12,958		12,419	
	日本コメ市場(取引会)		11,766	11,650		11,917		12,135	12,593				
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			11,700	11,700		12,253	12,215	12,516	13,100			
	日本コメ市場(取引会)												12,209
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)			11,200		11,214							
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)		10,851										
千葉あきたこまち	日本コメ市場(取引会)			11,500		11,581		12,152					
	日本コメ市場(随時)			15,371	15,551		15,548	15,654	15,465	15,537			
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)												
	日本コメ市場(取引会)		14,971	15,363		15,479		15,568	15,466			14,760	14,138

出典：日本コメ市場株式会社HP

注：1 日本コメ市場(随時)の価格は、随時取引(取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引)の下期(16日～月末分)。ただし、下期が公表されていない場合は上期)の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場(取引会)の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格(取引数量により加重平均)であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

## 2 米の先物取引価格の推移

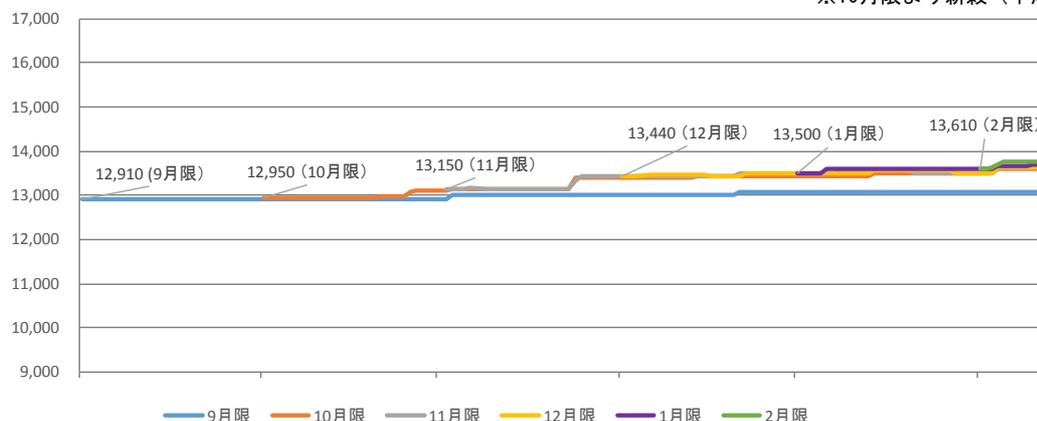
- 米の先物取引価格(9月1日)は、先月(8月1日)に比べ終値で、東京コメが±0円/60kg(9月限)~+150円/60kg(10月限)、大阪コメが±0円/60kg(9月限)~+80円/60kg(1月限)、新潟コシが+20円/60kg(6月限)~+160円/60kg(10、2月限)。

### ①東京コメ

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

税抜価格

※10月限より新穀(平成29年産)



13,760 (2月限)  
13,700 (1月限)  
13,630 (11月限)  
13,630 (12月限)  
13,600 (10月限)  
13,060 (9月限)

出典:大阪堂島商品取引所

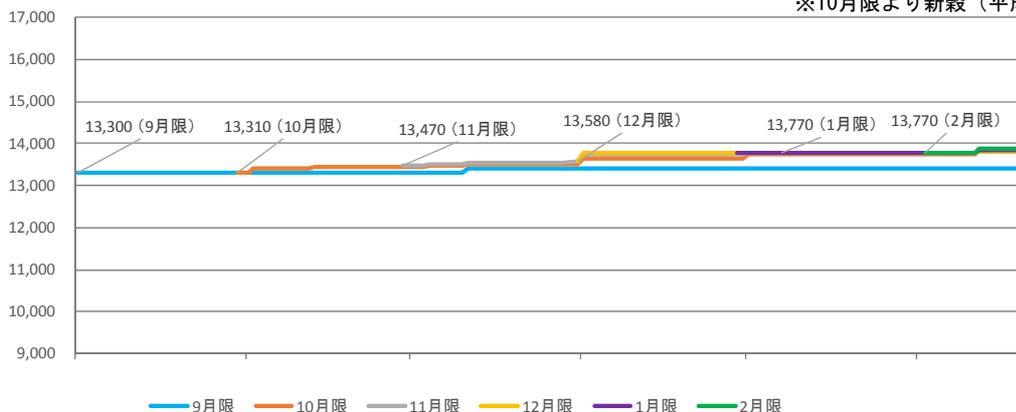
注:平成29年3月21日から平成29年9月1日までの価格の推移である。

### ②大阪コメ

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

税抜価格

※10月限より新穀(平成29年産)



13,880 (2月限)  
13,850 (1月限)  
13,820 (12月限)  
13,800 (10月限)  
13,800 (11月限)  
13,400 (9月限)

出典:大阪堂島商品取引所

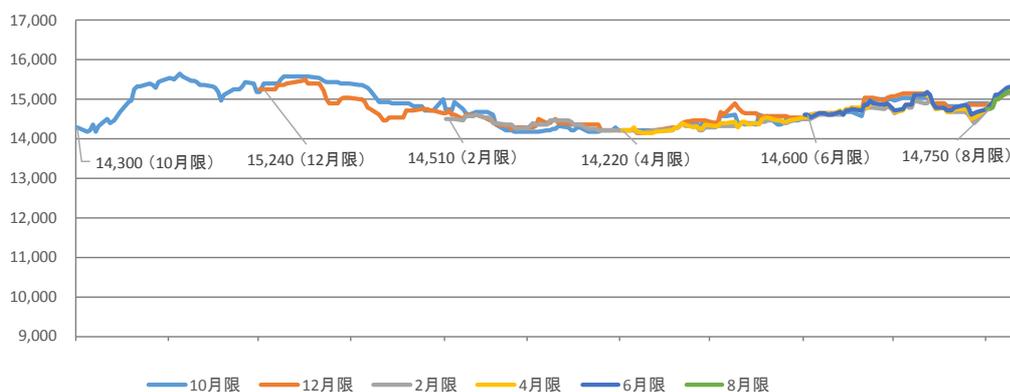
注:平成29年3月13日から平成29年9月1日までの価格の推移である。

### ③新潟コシ

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

税抜価格

※10月限より新穀(平成29年産)



15,210 (4月限)  
15,210 (6月限)  
15,210 (8月限)  
15,200 (10月限)  
15,200 (12月限)  
15,050 (2月限)

出典:大阪堂島商品取引所

注:平成28年10月21日から平成29年9月1日までの価格の推移である。

### 3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年8月分)

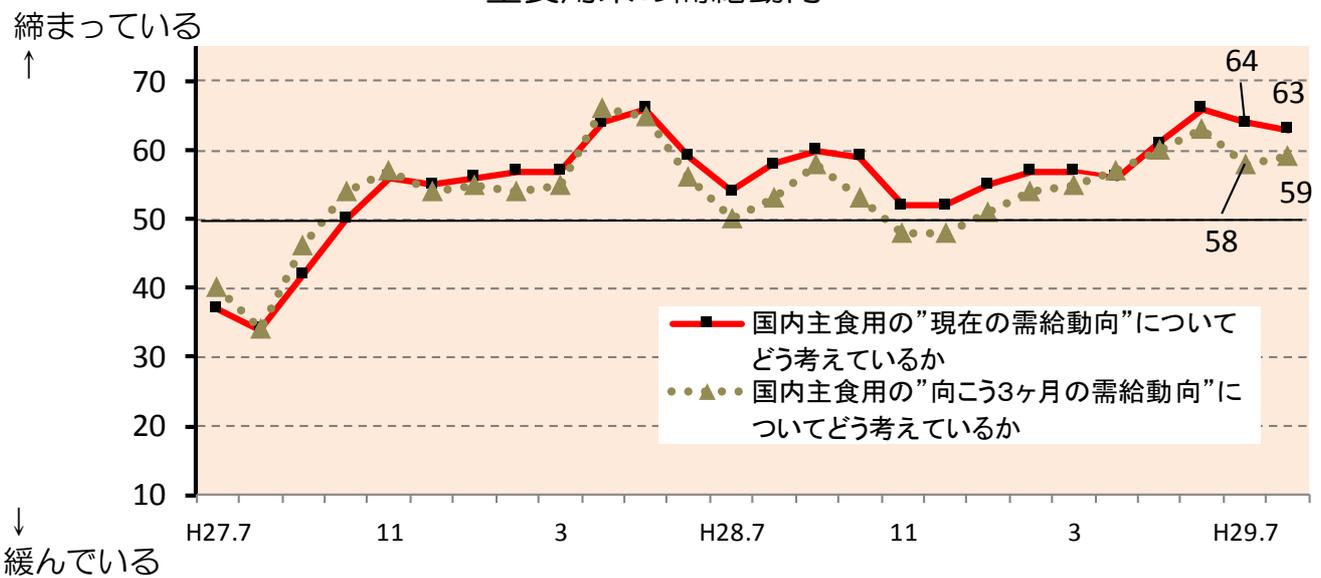
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成29年8月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は▲1ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は+1ポイント。

#### 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

##### ① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減 ▲ 1 (今月の数値 63)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減 + 1 (今月の数値 59)

#### 主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など  
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。  
 【<http://www.komenet.jp/>】  
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

##### 《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の165客体
- 有効回答数: 133客体
  - 生産者…………… 10
  - 集出荷業者/団体…………… 22
  - 卸売業者(主に主食用米) …… 28
  - 小売業者/中食・外食業者 …… 54
  - その他…………… 19

※「その他」は以下の業者です。  
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者  
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は+2ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は+10ポイント。

② 主食用米の米価水準

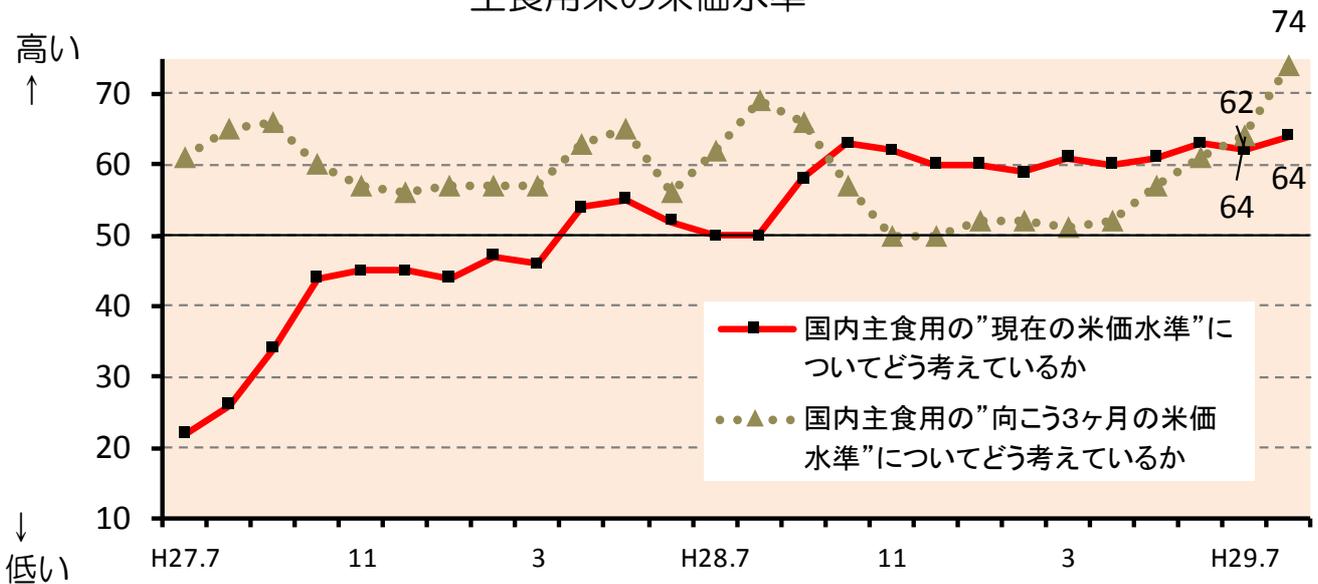
(ア) 現状判断D I

前月からの増減 +2 (今月の数値 64)

(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)

前月からの増減 +10 (今月の数値 74)

主食用米の米価水準



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

## V 主食用米以外（輸出を含む）

### 1 28年産米の作付状況

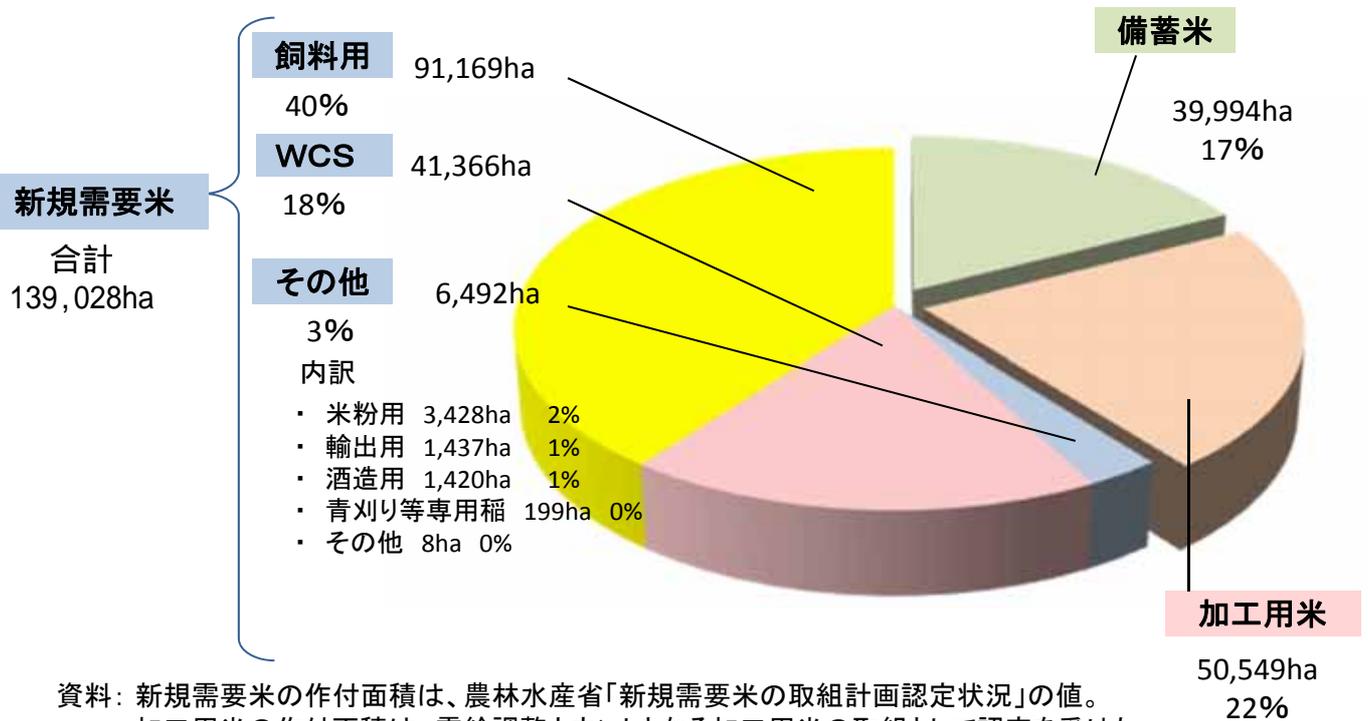
- 平成28年産米の作付面積は、主食用米が138.1万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米13.9万ha、加工用米5.1万ha、備蓄米4.0万ha。

#### (1) 28年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積 (万ha)	161.1	138.1	13.9	5.1	4.0
生産量 (万トン)		750	52	28	23

WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない

#### (2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：新規需要米の作付面積は、農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」の値。  
加工用米の作付面積は、需給調整カウントとなる加工用米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの28年度報告値。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

#### (3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米(28年産)							
	合計	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り等専用稲	その他
作付面積 (ha)	139,028	91,169	3,428	1,437	1,420	41,366	199	8
計画生産量 (ト)	515,200	481,468	18,454	7,950	7,309			19

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

## 2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成27米穀年度における使用量は対前年と同程度の約95万トン程度（推計）。
- 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 加工用米の生産量及び特定米穀の流通量が増加し、国産原料米を調達しやすい環境にあったことから、味噌を中心に、外国産原料からの転換が進んだところ。

### 27米穀年度（平成26年11月～27年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (9)	10		3			25 (9)
米菓用	1	2		7	2	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					10
味噌用		1		7	1		9
焼酎用 (泡盛含む)		1		5	2		8
米穀粉用		1	2	2	2	1	8
その他用	1			2	1		4
合計	18	22	2	24	9	2	77

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	7
米菓用	2	1		1	1	2	6
米穀粉用	1					1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	7	4		1	1	6	19

- 注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。  
 注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約7万トンを含んでいない。  
 注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。  
 注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。  
 注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。  
 注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

#### 【推計根拠】

- 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。  
 清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）  
 焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）、米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用  
 その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等
- 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。  
 主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「農産物検査結果」（農林水産省）、  
 加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告  
 新規需要米（米粉用米）・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量  
 MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）  
 輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）  
 特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

### 3 主食用米（生産数量目標の枠内）のうち加工原材料用向け販売数量及び加工用米生産量の状況

- 全国の生産数量目標の枠内で生産された米穀のうち加工原材料用向けに販売された数量は、集出荷業者からの聞き取りによれば、約13万ト。
- また、加工用米の生産量は、約27万ト。

(単位:ト)

	26年産	
	主食用米（生産数量目標の枠内）のうち加工原材料用向け販売数量	加工用米の生産量
北海道	33,900	19,454
青森県	400	9,885
岩手県	5,000	9,095
宮城県	7,800	5,142
秋田県	4,900	59,404
山形県	1,900	21,465
福島県	4,100	2,708
茨城県	300	10,578
栃木県	800	11,698
群馬県	30	6,153
埼玉県	2,300	1,025
千葉県	500	6,893
東京都		
神奈川県		
新潟県	21,600	36,242
富山県	1,500	6,471
石川県	2,000	4,569
福井県	200	4,057
山梨県	10	224
長野県	300	4,912
岐阜県	1,000	1,245
静岡県	300	676
愛知県	200	2,325
三重県	20	1,493
滋賀県	1,900	6,684
京都府	500	1,672
大阪府		
兵庫県	200	3,588
奈良県	200	1
和歌山県		
鳥取県		1,231
島根県	800	1,627
岡山県	2,400	2,884
広島県	2,900	1,644
山口県	600	3,411
徳島県	20	170
香川県	2,300	145
愛媛県	900	
高知県	400	191
福岡県	3,000	2,163
佐賀県	21,300	753
長崎県	200	62
熊本県	700	4,995
大分県	200	496
宮崎県		5,495
鹿児島県		3,443
沖縄県		
計	13万	27万

資料：農林水産省とりまとめ

注：「主食用米から加工原材料用向け」については、集出荷業者等が米加工業者に販売した生産数量目標の枠内で生産された米の数量であり、全国生産出荷団体、都道府県出荷団体、認定方針作成者等からの聞き取りによるもの（もち米を含み、酒造好適米を除く）。なお、集出荷業者等が米卸等に販売し、当該米卸が米加工業者に販売した数量は含まれない。

## 4 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成29年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
  - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
  - ② (協)日本飼料工業会組合員工場：年間約44万トン～61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
  - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
  - ⑤ 畜産農家の新規需要量：76件、約2万トン（平成29年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成29年3月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	J A西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先：JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL:03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成28年11月調査）

地区	需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	19～36	
東北	114～155	
関東	109～115	
中部	44～49	
関西	56～82	
九州	88～177	
合計	436～608	

注1)輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。

注2)上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注3)四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

※問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL:03-3583-8031 E-mail:Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。  
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL:03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL:03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成29年産飼料用米の新規需要量（平成29年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	1	未定		
宮城県	1	2,400		
岩手県	4	3,000	2	2,850
茨城県	2	40		
群馬県	4	113	1	1
埼玉県	1	40		
千葉県	6	2,103	0	227
山梨県	12	430		
長野県	8	1,307	7	757
静岡県	1	5		
愛知県	4	370	4	370
大阪府	3	14		
奈良県	5	1,610	2	380
広島県	1	1		
香川県	4	110		
福岡県	4	219		
長崎県	9	1		
大分県	2	2,100	0	60
宮崎県	2	2,425		
鹿児島県	2	2,000		
<b>合計</b>	<b>76</b>	<b>18,288</b>	<b>16</b>	<b>4,645</b>

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

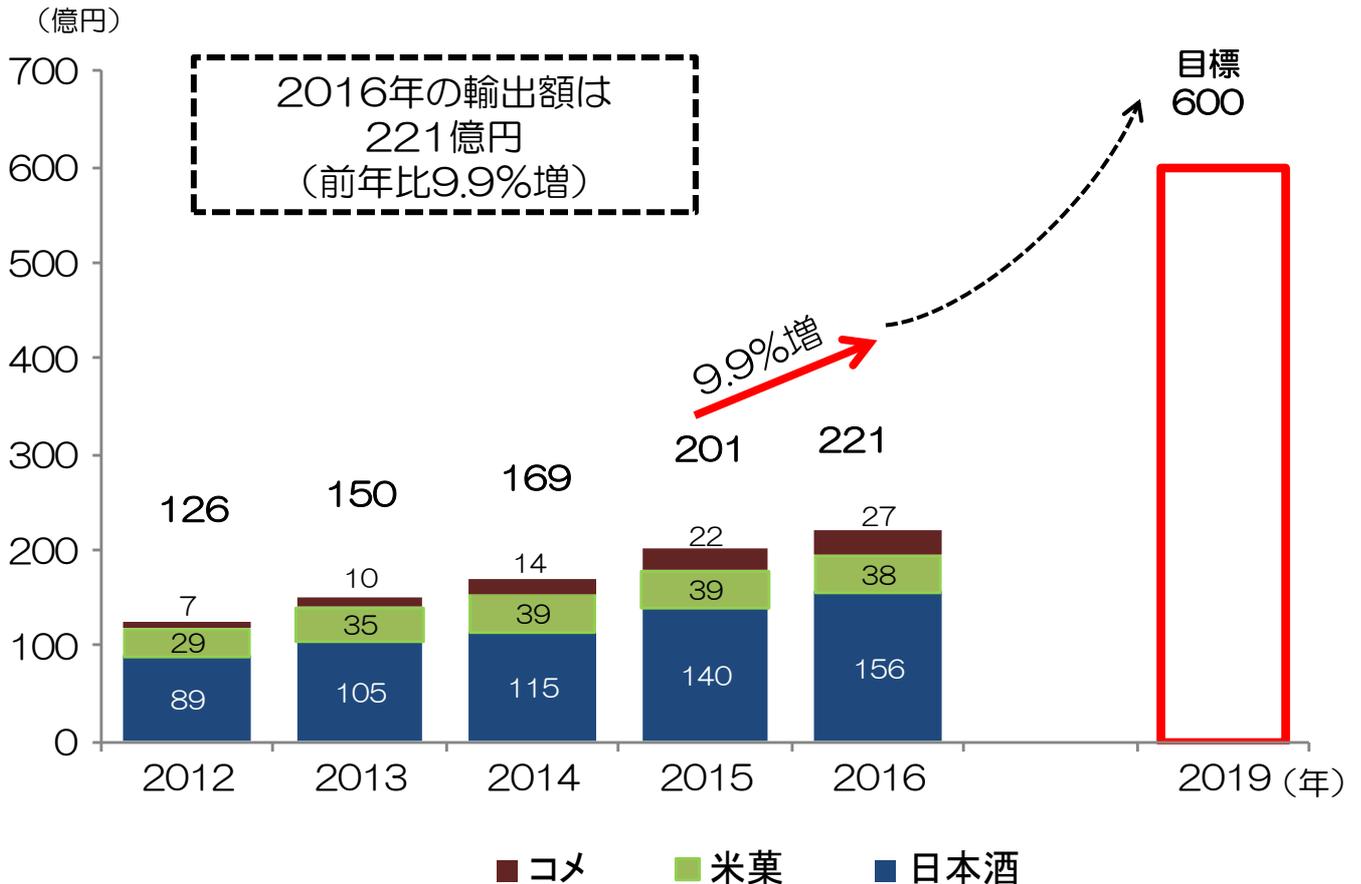
※一部確保済みの場合、件数0と記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL:03-3502-5993

## 5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

### コメ・コメ加工品の輸出状況



### コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）  
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

## 6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

### 2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成32年までに600億円とすることとしている。

### 輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

#### 【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



#### 【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



#### 【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



### 輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS  
JAPAN QUALITY  
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

## Ⅵ 支援事業等

### (1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

### 水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算要求額:3,304(3,150)億円】

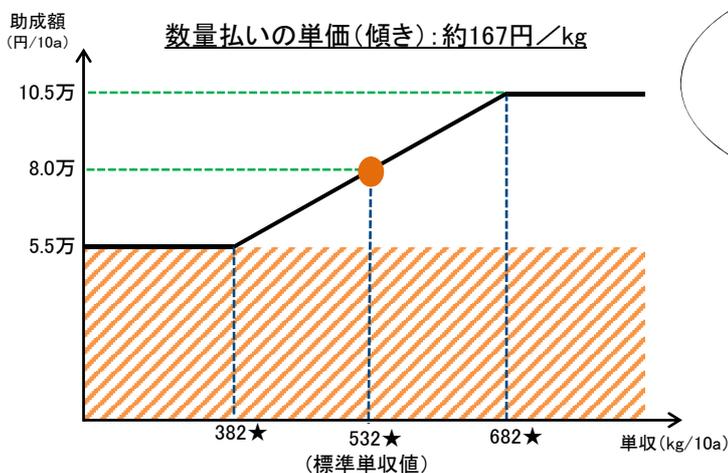
#### (1) 支援内容

##### ① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

#### <飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の単年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

#### <標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平均収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

## 水田活用の直接支払交付金(2)

### ② 産地交付金

#### 基本的運用

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大(1.0万円/10a)  
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓(2.0万円/10a)  
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化(10.5万円/10a)  
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

# 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- 支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- 支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- 作物別には、
  - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
  - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
  - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
  - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
  - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

## (1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	支払対象者		
		個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

## (2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

### ① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

### ② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

### ③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	-	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	-	-	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	-	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

## 水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
  - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
  - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

### (3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

### (4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位:ha)

	飼料用米のわら利用	水田放牧	資源循環の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

## 米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

### (5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数(件)				支払面積(ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積10a控除前(ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

## (2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

### 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算要求額： 1,984(1,950)億円】

#### (1) 支援内容（数量払）

##### ① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハフ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

##### ② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

##### ③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

##### ④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

##### ⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

##### ⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

## (2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

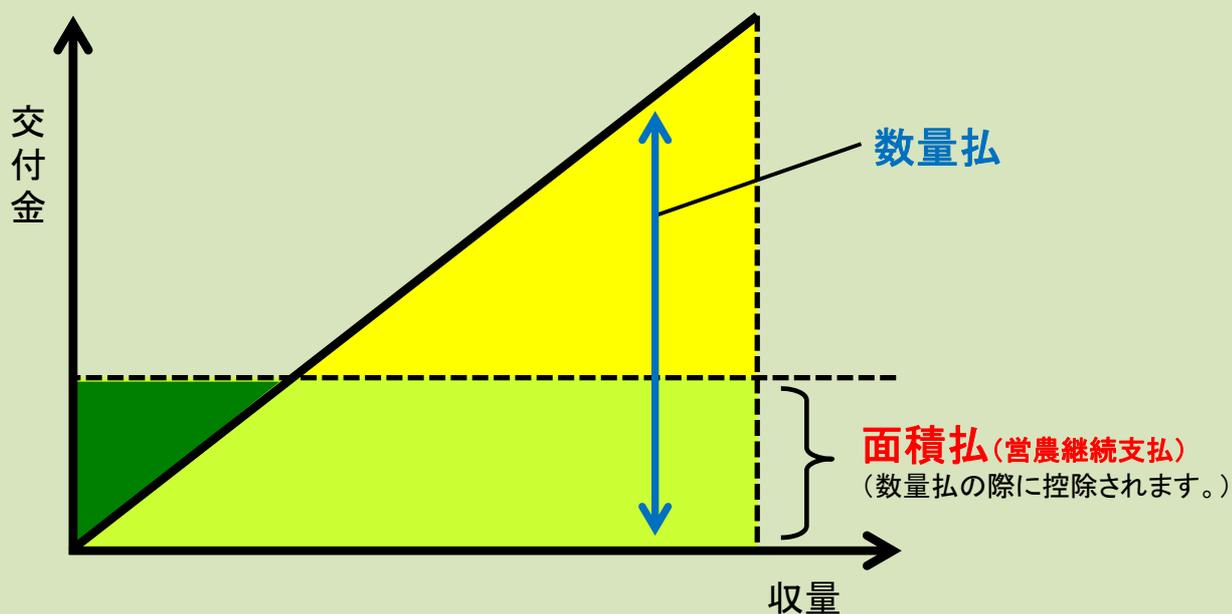
### ① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

### ② 交付単価

10a当たり2万円  
※「そば」は、10aあたり1万3千円

### ③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



#### 交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

**認定農業者、集落営農、認定新規就農者**  
(いずれも規模要件は課しません。)

#### 対象作物

麦、大豆、そば、なたね  
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)  
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

### (3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

#### 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算要求額:816(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

#### (1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

#### (2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。  
 ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

#### 【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

#### 【10a当たり当年産収入額とは】

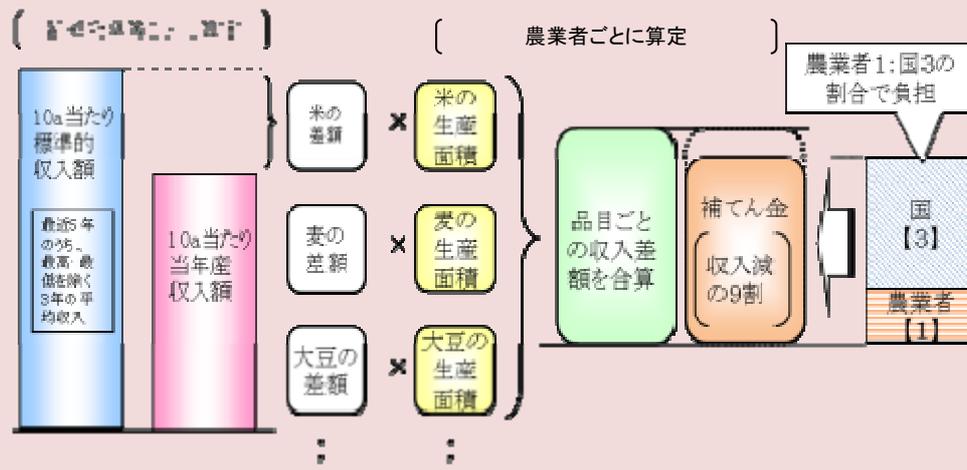
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

#### (3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成27年産ナラシ対策の支払い実績 (平成28年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県	加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※	(参考2) ※	
				米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)	
全 国	108,733	93,891	332.33	9,418	94	
北 海 道	19,968	8,872	29.14	4,283	42	
東 北	青 森 県	5,283	4,993	9.89	6,995	69
	岩 手 県	3,381	3,175	8.20	5,086	50
	宮 城 県	4,340	4,229	19.98	7,931	79
	秋 田 県	8,746	8,441	19.52	5,943	59
	山 形 県	7,698	7,451	7.86	2,893	28
	福 島 県	4,779	4,642	17.42	12,005	120
関 東	茨 城 県	3,263	3,074	14.42	17,913	179
	栃 木 県	5,141	4,989	20.47	13,354	133
	群 馬 県	958	931	1.79	2,502	25
	埼 玉 県	1,265	1,188	2.62	10,642	106
	千 葉 県	1,082	1,050	5.63	16,495	164
	東 京 都	4	3	0.00	8,568	85
	神 奈 川 県	125	121	0.14	10,647	106
	山 梨 県	137	123	0.28	11,545	115
	長 野 県	1,412	1,344	10.01	15,093	150
	静 岡 県	338	328	2.71	12,411	124
北 陸	新 潟 県	12,617	12,440	53.45	11,598	115
	富 山 県	1,509	1,320	6.08	5,788	57
	石 川 県	1,776	1,719	10.03	10,702	107
	福 井 県	1,172	1,094	6.78	9,079	90
東 海	岐 阜 県	681	654	4.26	9,270	92
	愛 知 県	641	608	6.57	9,900	99
	三 重 県	933	913	6.00	10,133	101
近 畿	滋 賀 県	2,406	2,363	13.19	12,606	126
	京 都 府	334	306	0.88	9,878	98
	大 阪 府	29	25	0.01	9,081	90
	兵 庫 県	1,095	916	1.45	7,844	78
	奈 良 県	91	85	0.14	14,604	146
	和 歌 山 県	77	68	0.04	8,207	82
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県	435	391	1.95	12,343	123
	島 根 県	749	734	4.83	11,895	118
	岡 山 県	903	865	3.34	15,352	153
	広 島 県	545	516	3.82	10,839	108
	山 口 県	845	817	2.84	7,483	74
	徳 島 県	231	208	0.40	13,037	130
	香 川 県	563	540	3.18	13,662	136
	愛 媛 県	644	615	2.29	15,634	156
	高 知 県	283	270	0.48	11,126	111
九 州	福 岡 県	1,995	1,924	9.15	6,103	61
	佐 賀 県	1,613	1,554	7.26	5,236	52
	長 崎 県	862	772	0.51	3,795	37
	熊 本 県	3,569	3,350	6.53	6,843	68
	大 分 県	1,410	1,306	2.74	10,157	101
	宮 崎 県	1,791	1,601	2.27	14,072	140
	鹿 児 島 県	919	873	1.74	6,962	69
沖 縄 県	95	90	0.05	2,052	20	

(注1) 加入件数は、平成27年7月31日時点の積立金納付者の件数である。

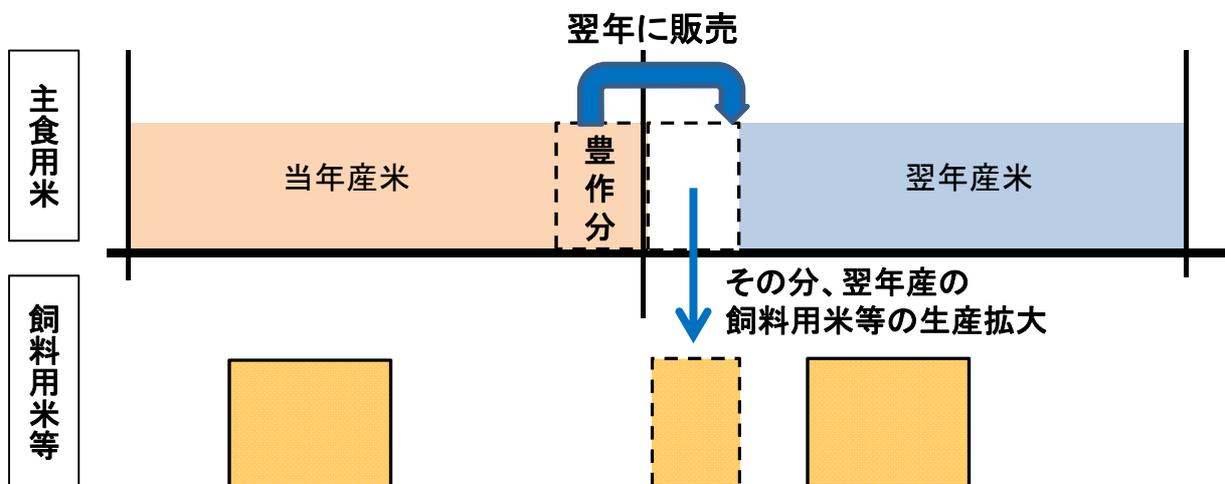
(注2) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

## (4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

### ① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算要求額 50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。  
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算要求額 3,304億円（対前年+154億円））



### ② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

#### 全国事業

産地と中食・外食事業者等との安定取引に向けたマッチングの取組を支援（定額）

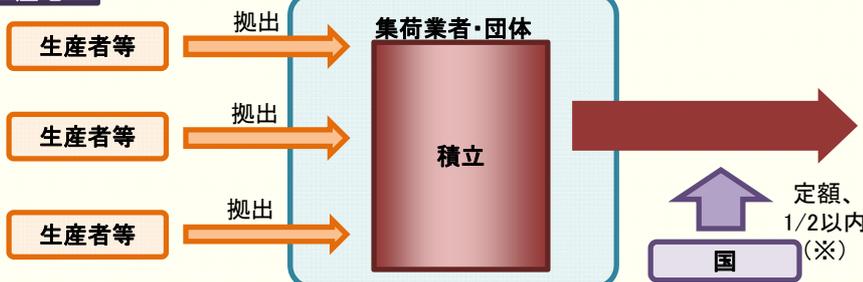
民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。  
→ 生産者と実需者の連携（マッチング）促進による安定供給の拡大

〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕



#### 産地



#### 産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- 周年安定供給のための長期計画的な販売
  - 輸出用向けの販売促進等
  - 業務用向け等の販売促進等
  - 非主食用への販売
- （※）値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

### ③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況

米穀周年供給・需要拡大支援事業の各産地の活用状況は、

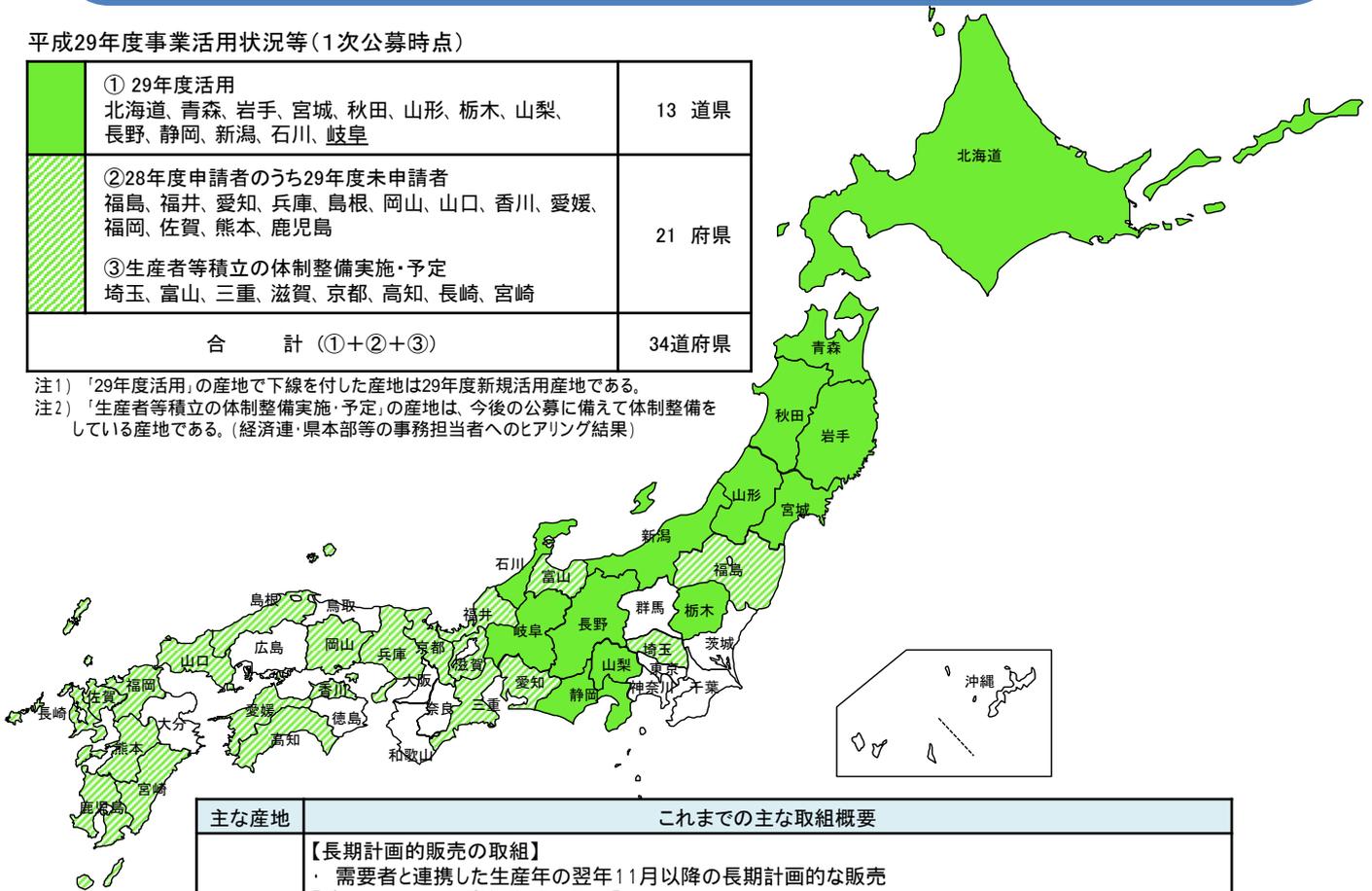
- ・ 平成27年度では17道県（18事業者）、平成28年度では25道県（27事業者）が活用。
- ・ 平成29年度は1次公募において13道県（15事業者）が活用。現在、追加公募の審査中であり、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

平成29年度事業活用状況等（1次公募時点）

① 29年度活用 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、岐阜	13 道県
②28年度申請者のうち29年度未申請者 福島、福井、愛知、兵庫、島根、岡山、山口、香川、愛媛、 福岡、佐賀、熊本、鹿児島	21 府県
③生産者等積立の体制整備実施・予定 埼玉、富山、三重、滋賀、京都、高知、長崎、宮崎	
合 計 (①+②+③)	34道府県

注1) 「29年度活用」の産地で下線を付した産地は29年度新規活用産地である。

注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備をしている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャラクター（マツコ・デラックス）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめびりか」のPR</li> <li>・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討</li> </ul>
秋田	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャラクター（小芝 風花）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR</li> <li>・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布</li> <li>・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施</li> </ul>
山形	<p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャラクター（V6 長野 博）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR</li> <li>・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動</li> </ul>
栃木	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元出身書道家（涼 風花）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「とちほのか」のPR</li> <li>・ 公共交通機関のラッピングバス等を活用したPR</li> </ul>
石川	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売</li> </ul> <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布</li> </ul> <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR</li> <li>・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催</li> </ul>

## VI 消費動向

### (1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年7月）によると、1人1か月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲1.9%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で+2.6%、中・外食は同▲11.2%。

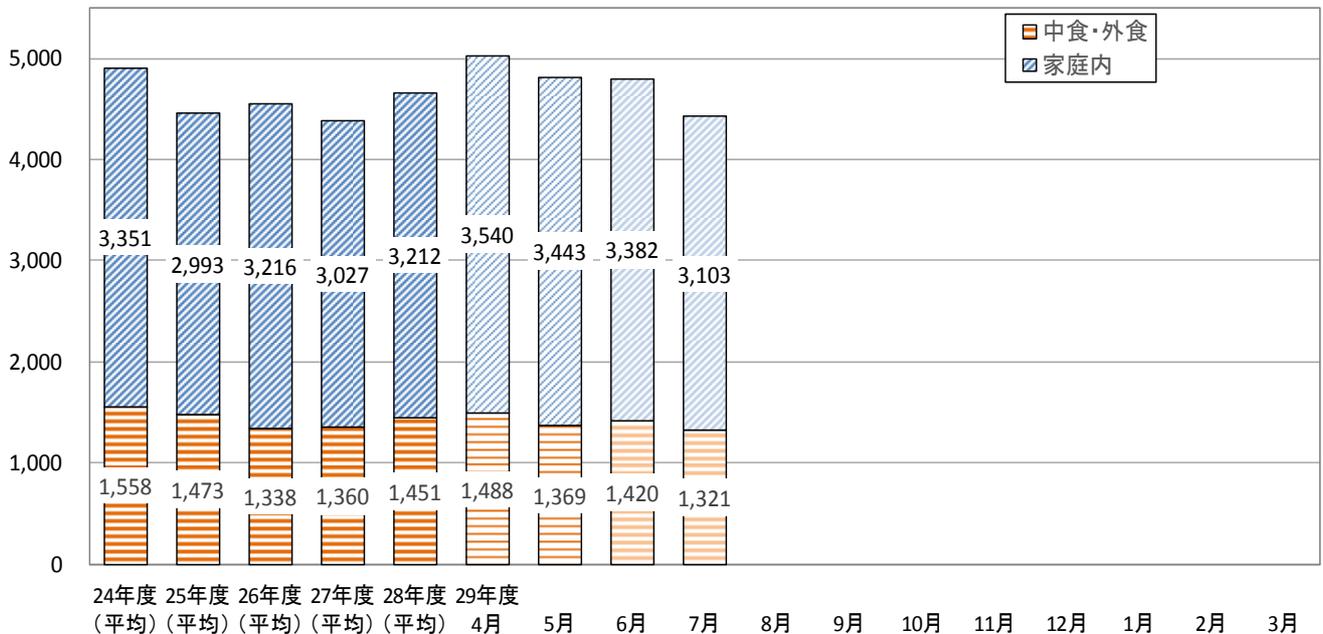
#### ① 1人1か月当たり精米消費量の推移

（精米g/人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内	中・外食	中食		合計	家庭内	中・外食	中食		合計	家庭内	中・外食	中食	
					中食	外食				中食	外食				中食	外食
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲5.9	▲4.2	▲8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲1.2	3.0	▲10.1	▲9.0	▲11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲0.1	3.6	▲7.7	▲5.3	▲11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲1.9	2.6	▲11.2	▲13.9	▲7.3

#### 1人1か月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g/人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年7月分の有効調査世帯数は1,759世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

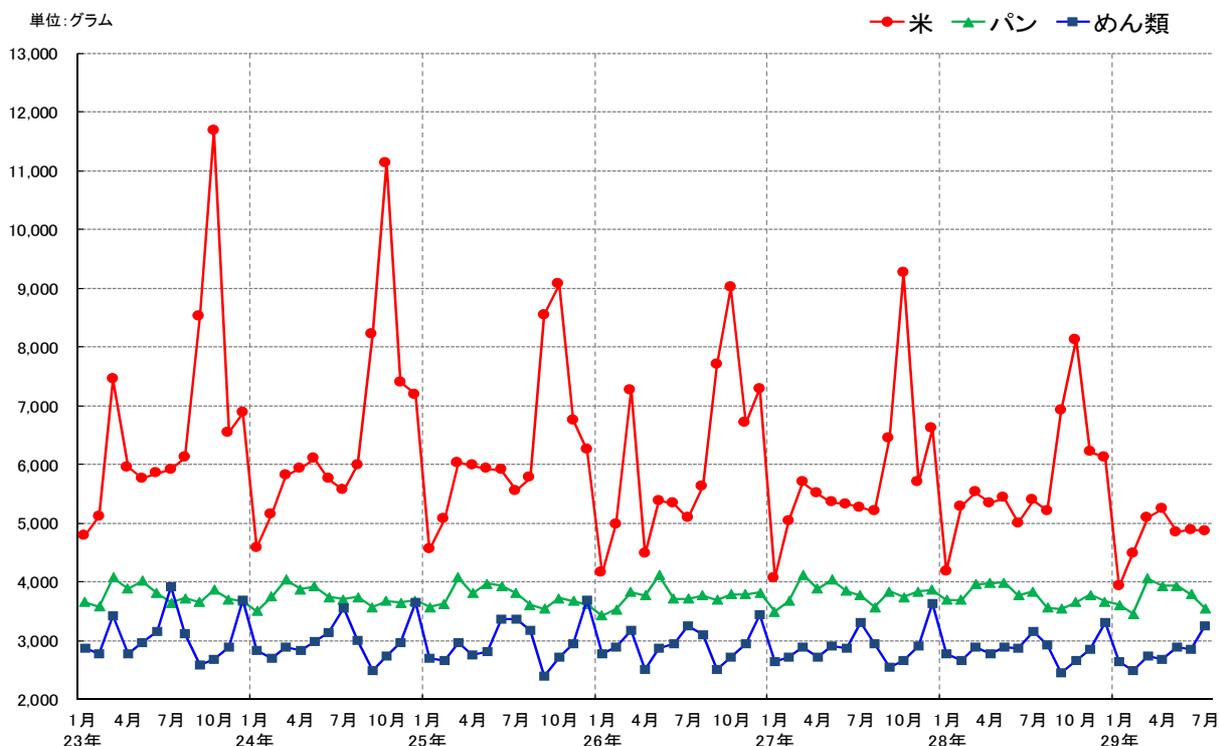
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

## (2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年7月の米の購入数量は、前年同月との比較で▲9.8%の4.9kg、パンについては▲7.4%の3.5kg、めん類については+3.2%の3.3kg。

### 1世帯当たり購入数量の推移



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%

資料：総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

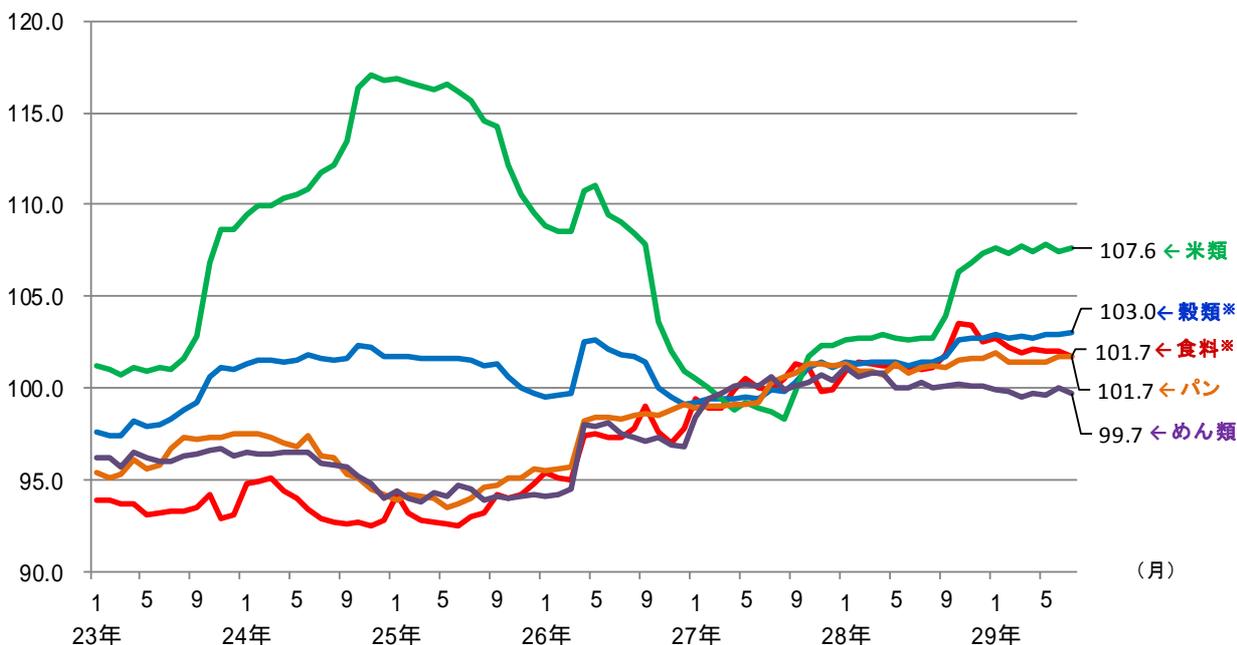
2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

### (3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年7月の米類の指数は、先月との比較では+0.2の107.6ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.8ポイント。

#### 消費者物価指数の推移



注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。  
 2 図中の数値は、平成29年7月の消費者物価指数となる。  
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

#### (表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

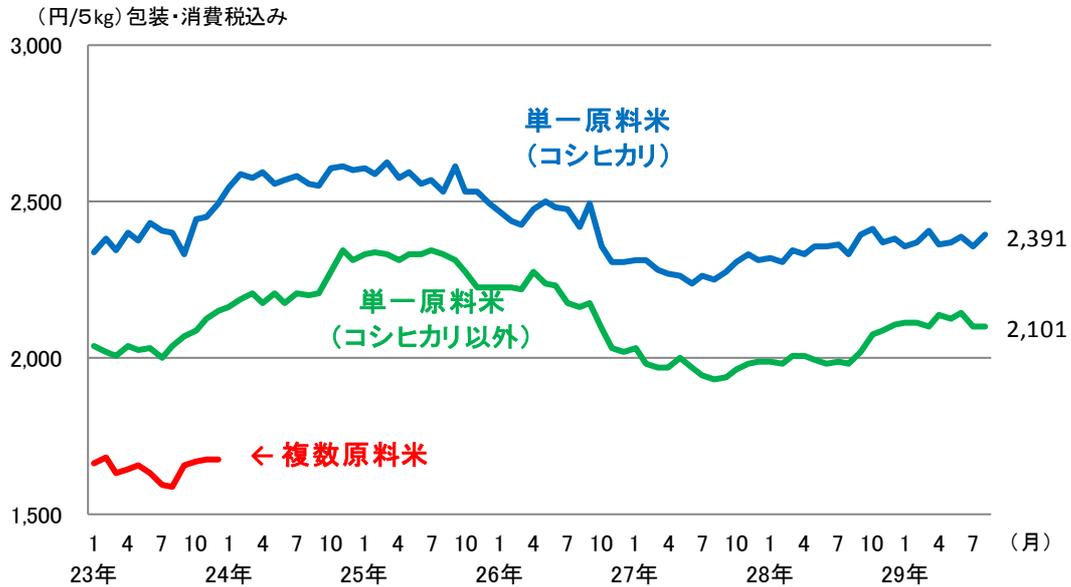
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比											
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%

資料： 総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）  
 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。  
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。  
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。  
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。

#### (4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年8月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より+2.5%の2,391円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+6.1%の2,101円。

(図) 小売物価統計の推移



注：図中の数値は、平成29年8月の価格となる。

(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	-
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	-
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	-
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	-
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	-
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	-
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	-
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

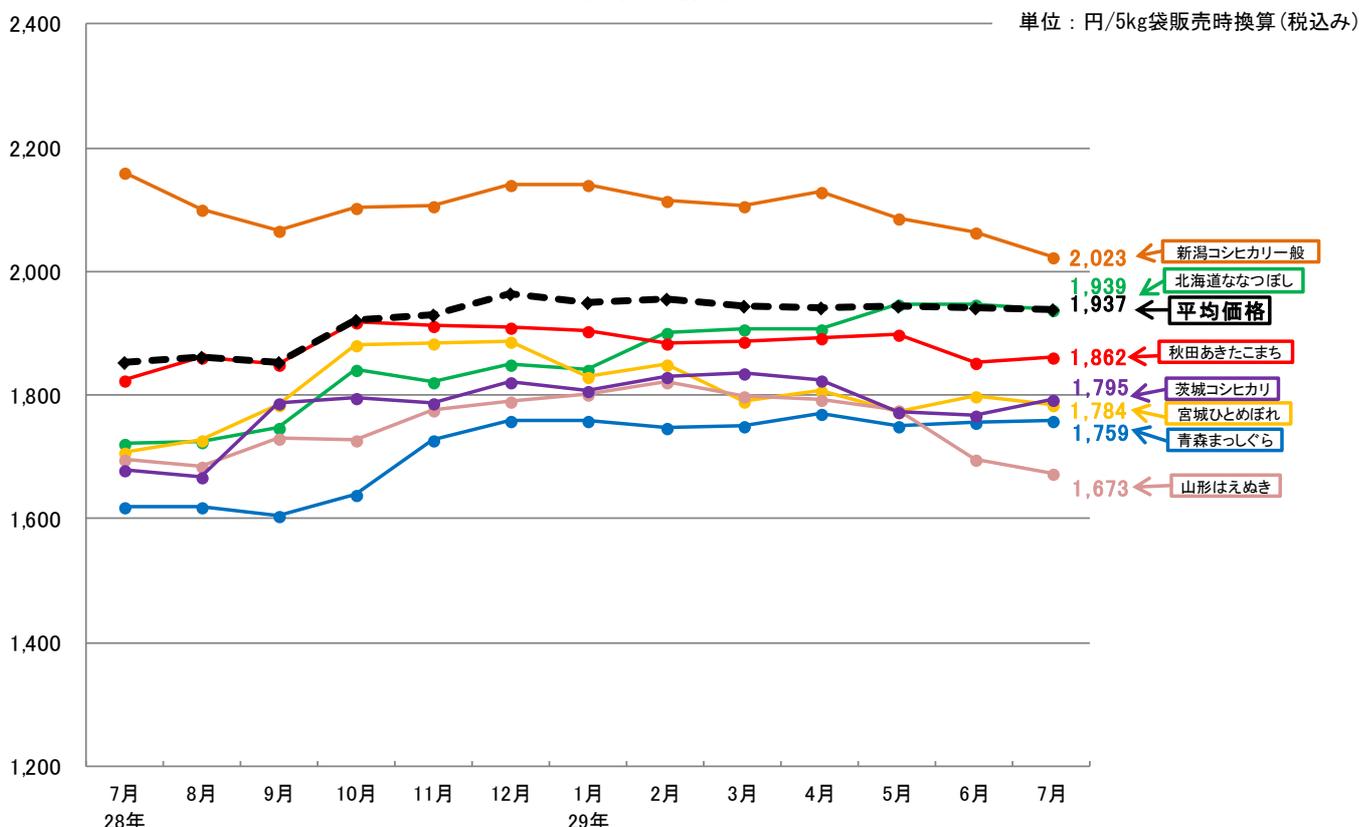
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

## (5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年7月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より▲4円(▲0.2%)、前年同月より+85円(+4.6%)の1,937円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年7月	1,721	1,621	1,707	1,826	1,697	1,679	2,160	1,852
8月	1,725	1,620	1,729	1,860	1,685	1,667	2,101	1,862
9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
10月	1,842	1,639	1,882	1,919	1,729	1,796	2,103	1,921
11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
対前月比	▲0.5%	0.2%	▲0.8%	0.5%	▲1.5%	1.6%	▲1.9%	▲0.2%
対前年同月比	12.7%	8.5%	4.5%	2.0%	▲1.4%	6.9%	▲6.3%	4.6%

資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,010店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

## Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

### （１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計	輸入方式別	
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (6月末現在)	-	11	-	-	-	11	11	-

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」  
※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

## (2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成28年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成28年4～6月分	15,460	平成28年4～7月分	2,910
4月分	300	平成28年8～11月分	3,221
5月分	875	平成28年12～平成29年3月分	3,158
6月分	1,612		
7～9月分	24,101		
7月分	426		
8月分	676		
9月分	953		
10～12月分	20,437		
10月分	718		
11月分	2,972		
12月分	3,445		
平成29年1～3月分	31,697		
1月分	657		
2月分	435		
3月分	1,090		
小計	105,854	小計	9,289
合計	115,143		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

## (3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成28年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成28年9月7日)	一般米	5,266	508	80		36		1,526		7,416
	砕精米	2,356	100	300	144	100				3,000
第2回 (平成28年12月16日)	一般米	5,169	576	538		600		1,501		8,384
	砕精米	2,600	100	300						3,000
第3回 (平成29年1月11日)	一般米	5,578	640	1,096		840		839		8,993
	砕精米	3,900	100	1,000						5,000
第4回 (平成29年1月25日)	一般米	2,875	480	362		340		396		4,453
	砕精米	4,400		600						5,000
第5回 (平成29年2月8日)	一般米	4,170	440	984	108	100		1,567		7,369
	砕精米	4,560	200	100		140				5,000
第6回 (平成29年3月3日)	一般米	4,260	956	427		240		2,268		8,151
	砕精米	7,004	200		244			100		7,548
合計	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～28年度

## VIII その他

### (1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稲うるち玄米の平成29年7月31日現在の検査数量は、1万トン。
- 1等米比率は、54.1%。

#### ① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,868
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	
参考：前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	
29	13									
参考：前年比	72%									

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

#### ② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,436	4,016,542	687,770	82,648	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,036,483	3,379,525	559,862	54,759	42,337	83.7	13.9	1.4	1.0
29(注3)	13,347	7,215	4,452	1,244	436	54.1	33.4	9.3	3.3

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年3月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年7月31日現在（速報値）。

## (2) 平成28年産水陸稲の作付面積及び収穫量

全 国 都 道 府 県	水 陸 稲 計		水				
	作付面積 (子実用)	収 穫 量 (子実用)	作付面積 (子実用) ①	10 a 当たり 収 量 ②	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別		
					10 a 当たり 収 量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④
	ha	t	ha	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,479,000	8,044,000	1,478,000	544	531	517	103
北 海 道 (2)	105,000	578,600	105,000	551	536	524	102
青 森 (3)	42,600	257,300	42,600	604	590	569	104
岩 手 (4)	50,300	271,600	50,300	540	530	519	102
宮 城 (5)	66,600	369,000	66,600	554	542	517	105
秋 田 (6)	87,200	515,400	87,200	591	577	554	104
山 形 (7)	65,000	395,200	65,000	608	597	578	103
福 島 (8)	64,200	356,300	64,200	555	538	526	102
茨 城 (9)	70,000	362,500	69,300	521	509	516	99
栃 木 (10)	57,600	316,900	57,400	551	541	528	102
群 馬 (11)	15,400	77,800	15,400	505	489	479	102
埼 玉 (12)	31,700	156,600	31,700	494	481	475	101
千 葉 (13)	55,800	305,900	55,700	549	538	525	102
東 京 (14)	152	629	151	415	406	401	101
神 奈 川 (15)	3,120	15,400	3,120	495	484	478	101
新 潟 (16)	116,800	678,600	116,800	581	565	524	108
富 山 (17)	38,100	215,600	38,100	566	555	525	106
石 川 (18)	25,600	136,700	25,600	534	525	504	104
福 井 (19)	25,100	134,300	25,100	535	518	499	104
山 梨 (20)	4,990	27,300	4,990	547	537	532	101
長 野 (21)	32,700	204,000	32,700	624	615	609	101
岐 阜 (22)	22,200	107,900	22,200	486	476	478	100
静 岡 (23)	16,000	84,000	16,000	525	519	513	101
愛 知 (24)	27,700	144,300	27,700	521	512	499	103
三 重 (25)	27,600	144,100	27,600	522	511	488	105
滋 賀 (26)	31,900	170,300	31,900	534	525	506	104
京 都 (27)	14,800	76,400	14,800	516	507	501	101
大 阪 (28)	5,310	26,800	5,310	505	491	480	102
兵 庫 (29)	37,000	185,400	37,000	501	490	489	100
奈 良 (30)	8,710	45,700	8,710	525	512	500	102
和 歌 山 (31)	6,720	34,100	6,720	507	496	484	102
鳥 取 (32)	12,700	66,300	12,700	522	515	504	102
島 根 (33)	17,700	93,500	17,700	528	521	500	104
岡 山 (34)	30,400	162,000	30,400	533	521	515	101
広 島 (35)	24,100	128,000	24,100	531	523	512	102
山 口 (36)	21,000	107,500	21,000	512	502	492	102
徳 島 (37)	11,700	57,300	11,700	490	487	469	104
早 期 栽 培 (38)	4,470	21,500	4,470	480	478	459	104
普 通 栽 培 (39)	7,180	35,700	7,180	497	494	475	104
香 川 (40)	13,200	67,100	13,200	508	504	493	102
愛 媛 (41)	14,200	72,100	14,200	508	501	493	102
高 知 (42)	11,800	54,000	11,800	458	456	454	100
早 期 栽 培 (43)	6,580	31,600	6,580	481	479	476	101
普 通 栽 培 (44)	5,180	22,200	5,180	428	425	427	100
福 岡 (45)	36,000	180,400	36,000	501	481	479	100
佐 賀 (46)	24,800	129,200	24,800	521	504	503	100
長 崎 (47)	12,000	59,500	12,000	496	481	462	104
熊 本 (48)	33,800	178,100	33,800	527	508	497	102
大 分 (49)	21,300	107,400	21,300	504	481	480	100
宮 崎 (50)	16,800	83,700	16,800	498	485	483	100
早 期 栽 培 (51)	...	...	6,730	461	454	470	97
普 通 栽 培 (52)	...	...	10,000	523	505	491	103
鹿 児 島 (53)	21,000	101,400	21,000	483	467	469	100
早 期 栽 培 (54)	...	...	4,610	429	416	434	96
普 通 栽 培 (55)	...	...	16,400	498	481	479	100
沖 縄 (56)	785	2,270	785	289	286	305	94
第 一 期 稲 (57)	560	1,970	560	351	348	365	95
第 二 期 稲 (58)	225	306	225	136	132	161	82

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 2 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
- 3 全国の収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 4 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された③10 a 当たり収量、④10 a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、各全国農業地域に所在する農家等が使用しているふるい目幅について、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

収 穫 量 (子実用) ⑥=①×②	稲		陸 稲				
	参 考		作付面積 (子実用)	10a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	(参 考) 10a 当 たり 平均収量 対 比	
	主食用 作付面積 ⑦	収 穫 量 (主 食 用) ⑧=⑦×②					
t	ha	t	ha	kg	t	%	
8,042,000	1,381,000	7,496,000	944	218	2,060	94	(1)
578,600	99,000	545,500	-	-	-	nc	(2)
257,300	36,800	222,300	2	198	4	79	(3)
271,600	47,100	254,300	x	x	x	x	(4)
369,000	63,600	352,300	-	-	-	-	(5)
515,400	69,300	409,600	x	x	x	x	(6)
395,200	56,800	345,300	-	-	-	-	(7)
356,300	60,100	333,600	2	175	4	101	(8)
361,100	67,200	350,100	652	212	1,380	91	(9)
316,300	53,600	295,300	232	239	554	103	(10)
77,800	14,100	71,200	7	157	11	97	(11)
156,600	31,200	154,100	4	139	5	103	(12)
305,800	53,900	295,900	31	246	76	134	(13)
627	151	627	1	160	2	119	(14)
15,400	3,110	15,400	5	207	10	119	(15)
678,600	101,500	589,700	2	230	5	105	(16)
215,600	33,800	191,300	-	-	-	nc	(17)
136,700	23,200	123,900	-	-	-	nc	(18)
134,300	23,600	126,300	-	-	-	nc	(19)
27,300	4,940	27,000	-	-	-	nc	(20)
204,000	31,700	197,800	-	-	-	nc	(21)
107,900	21,700	105,500	-	-	-	-	(22)
84,000	15,800	83,000	1	217	1	103	(23)
144,300	26,900	140,100	-	-	-	-	(24)
144,100	27,000	140,900	-	-	-	-	(25)
170,300	30,200	161,300	-	-	-	nc	(26)
76,400	14,300	73,800	-	-	-	-	(27)
26,800	5,310	26,800	-	-	-	nc	(28)
185,400	35,400	177,400	-	-	-	nc	(29)
45,700	8,680	45,600	-	-	-	nc	(30)
34,100	6,720	34,100	-	-	-	nc	(31)
66,300	12,500	65,300	-	-	-	nc	(32)
93,500	17,300	91,300	-	-	-	nc	(33)
162,000	29,200	155,600	-	-	-	nc	(34)
128,000	23,400	124,300	-	-	-	nc	(35)
107,500	19,800	101,400	-	-	-	nc	(36)
57,300	11,500	56,400	-	-	-	-	(37)
21,500	...	...	-	-	-	nc	(38)
35,700	...	...	-	-	-	nc	(39)
67,100	13,200	67,100	-	-	-	nc	(40)
72,100	14,200	72,100	-	-	-	nc	(41)
54,000	11,600	53,100	-	-	-	nc	(42)
31,600	...	...	-	-	-	nc	(43)
22,200	...	...	-	-	-	nc	(44)
180,400	35,400	177,400	-	-	-	nc	(45)
129,200	24,600	128,200	-	-	-	nc	(46)
59,500	12,000	59,500	-	-	-	-	(47)
178,100	32,500	171,300	0	139	0	99	(48)
107,400	21,100	106,300	-	-	-	-	(49)
83,700	15,500	77,200	1	113	1	56	(50)
31,000	...	...	...	...	...	nc	(51)
52,300	...	...	...	...	...	nc	(52)
101,400	20,200	97,600	3	143	4	67	(53)
19,800	...	...	...	...	...	nc	(54)
81,700	...	...	...	...	...	nc	(55)
2,270	785	2,270	-	-	-	nc	(56)
1,970	...	...	-	-	-	nc	(57)
306	...	...	-	-	-	nc	(58)

5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

6 陸稲の(参考)10a 当たり平均収量対比とは、10a 当たり平均収量(原則として過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値)に対する当年産の10a 当たり収量の比率である。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

## (別冊)「資料編」の目次

I	在庫情報	
	平成27/28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
II	米の価格情報	
	業者間取引の状況	16
	① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
	③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外 (輸出を含む)	
	(1) 加工用米及び新規需要米の取組状況等	19
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成28年産、都道府県別)	
	(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	21
	(3) 政府備蓄米の運営	22
	備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23~29年産)	
	(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	23
	(5) 2016年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	24
	(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	25
	(7) 日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	26
IV	消費動向	
	(1) 米の消費動向 (米穀機構による調査)	27
	(2) 小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	30
V	その他	
	(1) 米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成29年8月分)	31
	(2) 平成28年産水陸稲の収穫量	36
	(3) 水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	39
	(4) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移	39
	(5) 麦・大豆の需要情報	41
	① 29年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 28年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
	(6) 野菜等の需給情報	47
	(7) 米の安定取引研究会報告書の概要	49

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからもご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

## マンスリーレポートに関する問い合わせ先一覧

### 【農林水産省】

問い合わせ先	連絡先
政策統括官付農産企画課 ・企画班（林） ・米穀需給班（佐々木・石田・萱場）	03-6738-8973

### 【地方農政局等】

問い合わせ先	連絡先
北海道農政事務所 生産経営産業部 生産支援課	011-330-8807
東北農政局 生産部 生産振興課	022-221-6169
関東農政局 生産部 生産振興課	048-740-0100
北陸農政局 生産部 生産振興課	076-232-4302
東海農政局 生産部 生産振興課	052-223-4623
近畿農政局 生産部 生産振興課	075-414-9020
中国四国農政局 生産部 生産振興課	086-224-9411
九州農政局 生産部 生産振興課	096-300-6224
内閣府沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課	098-866-1653

### 【米に関する情報の公表をメールマガジンでお知らせしています！】

農林水産省では、米に関する各種情報を皆さまにお伝えできるよう「米に関するメールマガジン」を発刊しております。

当該メールマガジンにご登録いただくことにより、農林水産省が毎月公表している「相対取引価格・数量」「契約・販売状況」「民間在庫の推移」などの情報に加え、米に係る各種資料について、公表後、直ちにメールでお知らせいたします。

メールマガジンの配信につきましては、農林水産省ホームページからご登録ください。

#### 【メールマガジン配信登録】

農林水産省ホーム > 報道広報 > メールマガジン

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>



# 展示商談会・セミナー のご案内

**出展無料**  
出展希望の  
企業様へは  
お問い合わせ  
ください

## 展示商談会・セミナー 東京・大阪開催 各2日間

【開催日時】

**東京会場** 17C東京国際展示場(有明コロシアム)  
6/29(土)10:00-18:00 / 7/1(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください



**大阪会場** 17C大阪国際展示場(インテックス)  
6/30(土)10:00-18:00 / 7/2(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください

※各会場とも、展示時間内は、  
展示場内を自由に移動でき、  
展示内容に関するお問い合わせ  
も随時受け付けています

## 展示商談会・セミナー+現地交流会(各4日間) 各2日間

【1日】 展示商談会 10:00-20:00 セミナー (10:30-12:00 / 12:30-14:00)

※各会場とも、展示時間内は、  
展示場内を自由に移動でき、  
展示内容に関するお問い合わせ  
も随時受け付けています

【2日】 現地交流会

※各会場とも、展示時間内は、  
展示場内を自由に移動でき、  
展示内容に関するお問い合わせ  
も随時受け付けています

【開催日時】

**札幌会場** 札幌コンベンションセンター(札幌)  
6/29(土)10:00-18:00 / 7/1(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください

**仙台会場** 仙台コンベンションセンター(仙台)  
6/29(土)10:00-18:00 / 7/1(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください

**名古屋会場** 名古屋コンベンションセンター(名古屋)  
6/29(土)10:00-18:00 / 7/1(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください

**岡山会場** 岡山コンベンションセンター(岡山)  
6/29(土)10:00-18:00 / 7/1(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください

**高松会場** 高松コンベンションセンター(高松)  
6/29(土)10:00-18:00 / 7/1(日)10:00-18:00  
5:00-9:00 出展希望企業様へは  
お問い合わせください



# 産地向け募集説明会 の参加申込書

◎申し込み会場：以下開催地域の会場に◎も記入ください

※本用紙に郵便切貼で記入の上、FAXまたはメールで送付し頂くください

◎申し込み期間：告知掲載後直轄地の1週間前までには必ずお申し込みください

【開催会場】

※開催地にお申し込みいただいた産地は、以下のとおりです。開催地以外からの産地参加も可能です。  
メールでお申し込みください(備考欄に、産地名と産地に関する詳細な説明を記載してください)

※申し込み順となっておりますが、産地一社一社に必ずしもお集まりの産地ではない可能性があります。産地が満員となった場合は、お申し込みの順番が前後する場合があります。また、お申し込みの順番が前後する場合があります。また、お申し込みの順番が前後する場合があります。

◎開催地別チェック項目

- 札幌会場 6/29(土) 5:00-9:00
- 仙台会場 6/29(土) 5:00-9:00
- 名古屋会場 7/1(日) 5:00-9:00
- 岡山会場 7/1(日) 5:00-9:00
- 高松会場 7/1(日) 5:00-9:00
- 札幌会場 6/27(土) 6:00-18:00
- 大阪会場 7/1(日) 6:00-18:00
- 岡山会場 7/1(日) 6:00-18:00
- 高松会場 7/1(日) 6:00-18:00

◎参加希望し込める人種

氏名	〒	〒	〒	〒	〒
住所	〒	〒	〒	〒	〒
TEL	( )	( )	( )	( )	( )
FAX	( )	( )	( )	( )	( )
E-MAIL	( )	( )	( )	( )	( )

【お問い合わせ先】  
マツダマーケティング 産地向け募集説明会事務局  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 マツダビルディング 501号室  
TEL:03-3842-0000 FAX:03-3842-0708  
E-MAIL:marketing@toyota.co.jp



買付用途への安定取引に向けた

# 米マッチングフェア

2017

**産地**  
大規模生産法人、農協等

**実需者**  
中産・外産事業者等

【開催期間】全農10ヵ所（11箇所開催）

**平成29年9月～平成30年2月**

札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

【開催内容】  
・産地・実需者との直接取引  
・中産・外産事業者との直接取引  
・買付用途の安定取引に向けた

産地内での米の消費が減少一方で、中産・外産業に求められる米の需要は伸びており、このように需要と供給の乖離は、今後も深刻化懸念が感じられます。

米の消費量の減少が原因による米の需給調整の必要性が感じられてくる中で、中産・外産業の法人や農協等がユーザーである中産・外産事業者と結びつき、買付用途のニーズに応じた米の供給を行い、産地帯からの買付用途の米供給を確保するなどの取組を実施していくことが重要です。

このような取組の拡大に向けて、買付用途への取組強化に呼び掛かれています。中産・外産事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」をぜひ活用して頂きます。

詳細、ぜひこの「米マッチングフェア」をご覧ください。お問い合わせ先も掲載しております。

主催：全農、農協連合会、中産・外産事業者等  
 協賛：中産・外産事業者等、農協等  
 実行委員会：中産・外産事業者等、農協等

お問い合わせ先  
 米マッチングフェア事務局  
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
 TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112  
[www.metag.jp](http://www.metag.jp)



◎ マッチングフェア 2017

## 展示商談会・セミナー

のご案内

展示商談会・セミナー（東京・大阪） 各1回開催

- 【開催内容】
- 東京会場 TRC東京流通センター（東京都中央区新富町1-1）  
平成29年10月24日（火）・25日（水）
  - 東京会場 TRC東京流通センター（東京都中央区新富町1-1）  
平成30年2月6日（火）・7日（水）

大阪会場 マイドームおおさか（大阪府大阪市東淀川区東船場1-1）  
平成29年12月12日（火）・13日（水）

各地 展示商談会 10:00～16:00（開場午前9時～3時）

セミナー  
 東京会場 11:00～12:00 2回 14:00～15:00（各100名）

セミナー  
 大阪会場 11:00～12:00 2回 14:00～15:00（各100名）



【開催内容】

中産・外産業に求められる米の消費、産地帯からの買付用途の米供給を確保する。買付用途の米供給を確保し、中産・外産事業者等との直接取引を促進する。

